

第十五式 醫官診斷證書

〔用紙表裏同紙〕

診斷證書

何處發

何兵衛何職階何大隊何中隊長

官氏名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際右大腿前下部ヨリ膝關ニ貫通スル骨傷銃創ヲ受ケ當日直ニ何地細帶所(何地何病院)ニ於テ治療ヲ施シ爾後何地何病院ニ入院(何地病院ヲ經テ何地何病院ニ入院)加療(何々ノ部ニ何術ヲ施シ)傷痕ハ治療スト雖モ服役ニ堪ヘヌ現今膝關節強直ヲ胎シ該下肢ノ用(右下肢)ヲ失フニ由リ陸軍恩給令第十九條第五項(第三項)ニ策定候也

年月日

主任醫官 職官氏名 ㊦

再檢

職官氏名 ㊧

職官氏名 ㊨

職官氏名 ㊩

〔傷痕ノ種類部分淺深骨傷ノ有無及ヒ治療診斷書ヲ得ヌル現時ニ方テ官能ヲ妨礙スル狀況ト北度ヲ殊ニ詳細記載スヘシ〕
〔下士以下モ上式ニ準ス但末文ヲ左ノ如ク配ス〕
右下肢ノ用ヲ失フニ由リ服役ニ堪ニ可カラサル者ト診斷候也
〔疾病ナラハ〕
右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際何病ニ罹リ何地何病院ニ入院治療相加該病ハ漸ク恢復ニ至ルト雖モ何々ノ部ニ何症ヲ胎シ(精神錯亂症ヲ胎シ)何々ノ用ヲ妨ケ(或ハ何々スル能ハス)以下同文

〔此再檢ハ取扱規則第三十條ニ據リ醫官(醫正以上)限ル〕
〔但醫正アラサル時ハ古參ノ軍醫ニシテ診斷書ヲ作りタルモノヨリモ上級ノ者タル(ハシ)〕

第十六式 醫官検査意見書

〔用紙表裏同紙〕

検査意見書

官氏名

右ハ官氏名ノ診斷證書ニ照シテ實査スルニ現今何何ノ證アリ猶加療ノ上ナラテハ項差ヲ策定シ難キ者ニ有之候也

年月日

職官氏名 ㊦

職官氏名 ㊧

第十七式 醫務局覆數證書

〔用紙表裏同紙〕

覆數證書

何處發

何兵衛何職階何大隊何中隊長

官氏名

右ハ官氏名等ノ診斷證書ヲ覆數スルニ傷痕ハ治療スト雖トモ右膝關節強直ヲ胎シ該下肢ノ用ヲ全廢スルニ由リ服役ニ堪ヘサル者ト診斷シ陸軍恩給令第十九條第五項ニ策定スル者至留ニ有之候也

年月日

職陸軍軍醫總監 氏名 ㊦

同陸軍軍醫監 氏名 ㊦
同陸軍何等軍醫正 氏名 ㊦

第十八式 賑恤金ニ係ル醫官診斷證書

〔用紙美濃紙〕

診斷證書

何職 何兵官何職隊官何大隊官何中隊
第何號

陸軍何兵卒 氏 名

右何年(何役)何月何日中略(但十五式ノ支費ニ準ス)傷痕ハ治癒スト雖モ右示指(右示指強直其用)ヲ失フニ由リ服役ニ堪ヘズ該傷痕ハ陸軍恩給令第四十九條第何項即明治十七年達乙第六十號御達第何款ノ甲(乙)證ニ屬スル者ト診斷候也

年月日

職官 氏名 ㊦
職官 氏名 ㊦
職官 氏名 ㊦

〔主任ハ職官氏名ノ所ニ主任ト配ス〕

第十九式 醫務局覆檢證書

〔用紙美濃紙〕

覆檢證書

何職

何兵官何職隊官何大隊官何中隊

陸軍何兵卒 氏 名

右ハ陸軍軍醫監(何等軍醫正)何某陸軍何等軍醫何某等ノ診斷證書ヲ覆檢スルニ傷痕ハ治癒スト雖モ右示指(右示指強直其用)ヲ失フニ由リ服役ニ堪ヘズ該傷痕ハ陸軍恩給令第四十九條第何項即明治十七年達乙第六十號御達第何款ノ甲(乙)證ト診斷スル者至當ニ有之候也

年月日

醫務局長 氏 名

職印

第二十式 地方病院長診斷證書

〔用紙美濃紙〕

診斷證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族
平民
元何職隊官何職隊官何大隊官何中隊

退職官 氏 名

〔本人死亡シ寡婦等ヨリ扶助料額ニ添フル診斷證書モ上式ニ準シ死亡セシ病症ヲ詳記スヘシ〕
〔規則第四條ニ依リ其治療歴〕

右何年何月何日ヨリ診察加療候處當時傷處ノ證狀
何々其他ノ諸證何々(何詳細)何々ノ治療ヲ施シ
(爾後傷處何々ニ由リ何年何月何日何手術ヲ施シ)
傷痕ハ漸ク治癒スト雖モ何部ニ何々ノ證ヲ胎シ何
何ノ用(何肢)ヲ失フ者ト診斷候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

年月日

病院長 氏名 ㊦

同

主任醫 氏名 ㊦

同

相談醫 氏名 ㊦

右診斷之備致實檢候也

何府(縣)何職 氏名 ㊦

第二十二式 癩疾不具シ證スル診斷證書 [用紙美濃紙]

診斷證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族

何領事何兵衛何縣何大隊何中隊

故官氏父(母)(祖父母)(兄弟姊妹)

氏名

右何年何月何日來何病ニ罹リ何部ニ何證ヲ胎シ
(何ノ官能ヲ妨ケ)(生來ノ何々ニシテ)產業ヲ營ム

不能ハサル者ト診斷候也

年月日

何府(縣)何郡(區)何町(村)

病院長 氏名 ㊦

右之通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

戶長 氏名 ㊦

第二十二式 死亡診斷證書

[用紙美濃紙]

死亡診斷證書

何種殺

何兵衛何縣何大隊何中隊 官 氏名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際何部ヨ
リ何部ニ至ル何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)何地綑縛所
(何月何日ヨリ何地何病院)ニ於テ治療候處(何々
症ヲ繼發)遂ニ何々ニ由リ木日午前(後)何時何分
死亡候也

年月日

何病院長 官 氏名 ㊦

主任醫官

職 官 氏 名 ㊦

第二十二式 見證證書

〔用紙美濃紙〕

見證證書

何兵衛何尉何大尉何中隊
第何號

官氏名

右何役何月何日何地ニ於テ俱ニ進軍ノ節(器械搬
換ノ際何運動ニ方リ逆サマニ墮落シ左側ノ桁ニ觸
レ)(何々ニ由リ何物ノ爲メニ)何部ニ何傷痕ヲ受
クルヲ認メ候也

何部何兵衛何尉何大尉何中隊

年月日

同

官氏名 ㊦

同

官氏名 ㊦

卒氏名 ㊦

第二十四式 死去證書

〔用紙美濃紙〕

死去證書

官氏名

右何年何月何日死去ニ及ツ段居ケ出候官戸籍ニ記

〔母ノ死去ノ時ハ〕

故官氏名並
同人孤兒名母
名

所有之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

年月日

戸長 氏名 ㊦

〔長子ノ死去證書モ之ニ準ス〕

第二十五式 離別證書

〔用紙美濃紙〕

離別證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族
平民

故官氏名

離別當時年何月何年何月

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族
平民

氏名何女名

離別當時年何月何年何月

右何年何月何日結婚ノ處何年何月何日離別ニ及フ
段居出候ニ付氏名ノ戸籍ヲ削リ氏名ノ戸籍ニ送籍
候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

戸長 氏名 ㊦

〔再婚者クハ復籍ナラハ離別
證書ヲ〕
再婚證書或ハ復籍證書ニ作ル
〔離婚ノ事先住地ニ在ラハ〕
何府(縣)何々
故官氏名
右妻ハ當區へ移住前何年何月
何日離別致候由依テ當區戸籍
上妻ハ記載無之候也
但離別ノ妻ニ出生ノ男婦人
女幾人アリ共ニ送籍狀ニ具
シ候也
〔再婚ナラハ〕
右何年何月何日何某ト再婚ニ
及フ段居出以下同文
〔復籍ナラハ〕
右何年何月何日何某ハ復籍ニ
及フ段居出(區)町(村)戸籍
ニ記載有之候也

第二十九式 下士以下ニ係ル服役年並恩給計算書 [用紙美濃紙]

服役年並恩給計算書	所屬隊號	官 氏 名
年 月 日 市 山 服役年通算		
明治八年四月三十日 兵 一年二箇月二十一日		
同 九年七月十一日 除ク		
同 十年三月六日 除ク		
同 年三月七日 任何官		
同十二年三月十二日 任何官	八年九箇月十四日	
同十五年四月十一日 任何官		
同十八年十二月二十日 服役終期		
	總計八年九箇月十四日	
明治十二年三月十八日 輕禁錮 十一日 令第三十六條ニ據リ除ク		
同 年三月二十八日 差引八年九箇月三日		
	免除恩給十一年ノ高	
	金六拾圓 此四分ノ金額	
	名傷附加恩給第五項	
	金貳拾圓五拾錢 此四分ノ金額	
	金貳拾圓五拾錢 此四分ノ金額	

刑期ヲ除クニハ總テ三十日ヲ以テ一箇月ト爲シ之ヲ計算ス

年月日	何鎮臺參謀長	氏 名	職印

第三十式

出缺疾病ニ付退職及免除恩給願 所管長官ヨリ陸軍大臣ヘ進達書

[用紙美濃紙]

何鎮臺何兵衛何聯隊第何大隊第何中隊

第何號

官 氏 名

右何年某地征討從軍中何月何日某ノ戰地ニ於テ右
上肢ノ用ヲ全廢シ服役ニ堪ニ難ク別紙ノ通恩給願
出候付調査候處事實相違無之服役年等別紙計算書
之通ニ候就テハ陸軍恩給令ニ依リ恩給下賜相成度
査覈ノ書類相添此段申進候也

年月日 何鎮臺司令官(何長)(爵) 氏名 [職印]

陸軍大臣爵氏名殿

第三十一式

傷疾ノ思給増加並ニ服役ヲ離レテ正ニ其思給ヲ願フニ付 陸軍大臣ノ進達書

〔用紙美濃紙〕

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 平民

元何鎮守何兵第何聯隊第何大隊第何中隊

退職 官氏名

〔下士以下モ第三十九式ニ準ス〕

右何年何月何日某地ニ於テ實地演習ノ際兩眼負傷傷疾第六項ニ策定既ニ恩給並負傷増加恩給下賜候處爾後重症ニ變シタル趣ヲ以テ恩給増加願出候ニ付猶及調査候處事實相違無之服役年等別紙計算ノ通ニ候就テハ陸軍恩給令ニ依リ更ニ傷疾恩給増加下賜相成度查取ノ書類相添此段申進候也

〔服役ヲ離レタル後傷疾疾病ニ基キ更ニ其恩給ヲ願フ時モ上式ニ準ス〕

〔計算書ハ第三十九式ニ準ス〕

年月日

何鎮守司令官(爵)氏名 〔印〕

陸軍大臣(爵)氏名

第三十二式

下士率賑恤金所屬隊長ヨリ 鎮守司令官ヘ申請書

〔用紙美濃紙〕

賑恤金申請書

何鎮守何兵第何聯隊第何大隊第何中隊

第何號

陸軍何兵卒 氏名

〔司令官ヨリ陸軍大臣ヘノ添書ハ第三十式ニ準ス〕

第三十三式

給助金願書

〔用紙美濃紙〕

右何年某地征討從軍中何月何日某ノ戰地ニ於テ右上肢ニ負傷シ醫療相加候末竟ニ右示指ヲ失フニ至リ所詮服役ニ堪ヘ難キ旨軍醫診斷相成候條特別ノ御詮議ヲ以テ相當ノ賑恤金下賜相成度證據書類何通相添此段申進候也

年月日 何鎮守司令官(爵)氏名 官氏名 〔印〕

給助金願書

名 儀

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤績本年何月何日服役滿期ニ依リ免官相成(後補軍)候ニ付相當ノ給助金下賜度履歷書相添此段奉願候也

年月日 何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 何番地主族(平民) 何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 何番地主密留 官氏名 〔印〕

〔遺族等ヨリ出願ノトキハ〕

何府(縣) 何番地主族(平民)

何鎮守何兵第何聯隊第何大隊 第何中隊

故官氏名

右何年何月何日被任何官「中路」何年何月何日何病ニ罹リ死去任候(以下同文)

故官氏名(孤兒)

氏名 〔印〕

〔密留地ニ於テ金額下付ヲ願フモノハ左ノ追書ヲ加フヘシ〕

何鎮臺司令官(何長)(爵)氏名服

追テ木文御詮議相成候上ハ寄留地ニ於テ拜受仕度候也

第三十四式 給助金願書ニ添フヘキ履歷書 「用紙美濃紙」

履歷

何府何國何郡何町何番地主族(平民)

現何府何國何郡何町何番地寄留

何鎮臺何兵衛何隊何中隊

官 氏 名

何年何月何日生

明治何年何月何日任何官

同何年何月何日依常備役滿期後備軍驅員申付^{「補年賜金」}

賜下

同何年何月何日任何官

同何年何月何日依服役滿期免本官

同何年何月何日病死

第三十五式 給助金願書舊所管長ヨリ陸軍大臣へ進達書 「用紙美濃紙」

何鎮臺

何兵衛何隊何中隊 官 氏 名

右之者今般現役滿期ニ依リ給助金願出候ニ付調査候處本人儀ハ陸軍恩給令第五十一條ニ適該スル者

ニ付相留ノ給助金下賜相成度別紙願書相添此段申進候也

年月日

何鎮臺司令官(何長)(爵)氏名^{「職印」}

陸軍大臣爵氏名服

「現役中死歿ノ者ナラハ」
右ノ者何年何月以來何病ニ罹リ何年何月何日死去致候ニ依リ其遺族何某ヨリ給助金願出候ニ付調査候處事實相違無之候間相留ノ給^{「以下同文」}

○陸軍省令乙第二百二十八號

陸軍恩給取扱規則同諸書式別冊之通定 (別冊ハ甲第三十六號ニ同シ)

明治十九年九月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第五百五號

横須賀海軍港規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

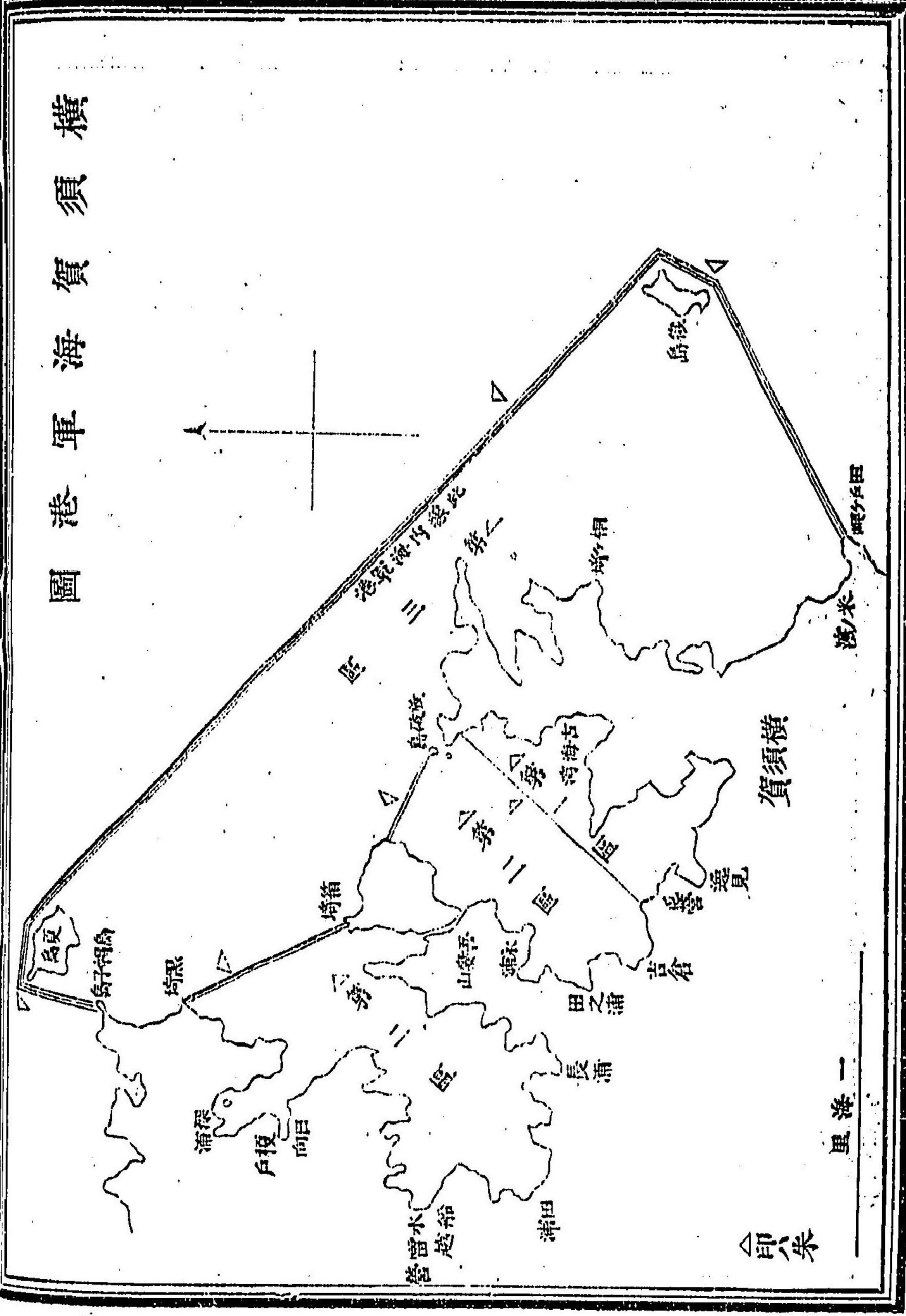
明治十九年九月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

横須賀海軍港規則

- 第一條 橫須賀海軍港ニ入港シ或ハ入港セントスル艦船及ヒ該港沿岸居住ノ人民ハ此規則ヲ遵守スヘシ
- 第二條 橫須賀海軍港ハ左ノ圖面ノ如ク之ヲ三區ニ分チ共一線以內ヲ第一區トシ二線以內ヲ第二區トシ三線以內ヲ第三區トス
- 第三條 艦船港内第二區ニ進入スルトキハ航海部長ノ指示ニ從ヒ其碇泊場所ヲ定ム可シ而シテ航海部長ノ許可ナク其場所ヲ變メ可カラヌ又碇泊セシ艦船ト雖モ港内ノ妨碍アリト認ムルトキハ退轉ヒレムルコトアルヘシ
- 第四條 艦船ハ左ニ記列スルモノヲ除クノ外航海部長ノ許可ナクシテ港内第一區ニ進入ス可カラヌ又許可ヲ得テ同區内ニ進入セシ艦船ノ進退ハ總テ航海部長ノ指示ニ從フヘシ
但左ニ記列スルモノト雖モ碇泊又ハ着船ノ場所ハ總テ航海部長ノ指示ニ從フヘキモノトス
 - 一 艦船附屬小汽船及ヒ艦船
 - 二 十五噸以下ノ海軍所屬船
 - 三 鎮守府司令長官ノ許可ヲ得テ一定ノ場所ヨリ軍港内ヘ往復スル船
 - 四 海軍ノ用品ヲ回漕スル履船又ハ注又品ヲ積載スル商船及ヒ解船
- 第五條 港内第一區第二區ニ碇泊スル艦船ハ航海部長ノ許可ナクシテ諸浮標ニ繫留スヘカラス
- 第六條 風波等ニテ端舟ノ往復シ能ハサルトキ避難ノ爲メ港内第二區ニ進入ノ艦船ハ航海部長ノ指示ヲ待タヌ錨地ヲ取ルコトヲ得然レトモ第一區ニ進入スルヲ許サス
- 第七條 火藥ダイナマイト等ノ如キ爆發物ヲ積載スル艦船ハ港内第一區ニ進入スルヲ許サヌ又火藥庫ヲ距ル百三十間二百六十以內ニ碇泊スルヲ許サヌ
但航海部長ニ於テ無害ト認定スルモノハ此限ニ在ラス

- 第八條 小汽船ハ火藥庫ヲ距ル百三十間二百六十以內ニ接近ス可カラヌ又解舟漁船ハ同距離以內ニ於テ火ヲ焚クヘカラス
- 第九條 傳染病者アル艦船ハ港内第二區ニ進入スルコトヲ禁ス
但海港檢疫ノ爲メニ碇泊スル艦船ハ此限ニ在ラス
- 第十條 港内第三區中ハ艦船何レノ地位ニ碇泊スルモ隨意タルヘシト雖モ鎮守府司令長官ニ於テ港内ノ妨碍アリト認ムルカ或ハ臨機必要ト認ムルトキハ其繫留場所ヲ指示シ又ハ退轉ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十一條 艦船ハ港内第二區第三區ニ於テハ禮砲又特ニ認可シタルモノ、外ハ砲銃ノ發射ヲ禁シ第一區ニ於テハ總テ砲銃ヲ發スルコトヲ禁メ
- 第十二條 港内第一區第二區ニ於テ灰燼或ハ塵芥ヲ遺棄スヘカラス艦船ニ於テ其遺棄ニ供スル解舟ハ造船所ニ請求スヘシ其他第三區内ト雖モ有害ト認ムル場所ハ遺棄ヲ禁シ臨時遺棄スヘキ場所ヲ指示スルコトアルヘシ
- 第十三條 港内第一區ニ於テハ航海部長ノ許可ナクシテ漁業ヲ爲スヘカラス
- 第十四條 港内沿岸ノ土地ハ何區ヲ論セズ總テ鎮守府司令長官ノ許可ナクシテ其形ヲ變換シ又ハ棧橋波止場ヲ設ク可カラヌ
- 第十五條 軍港内ト他港ト定期航海ノ營業ヲ爲サントスル者ハ地方廳ヲ經由シ鎮守府司令長官ノ許可ヲ請フヘシ右許可ヲ經ル者ト雖モ該長官ニ於テ有害又ハ危險ト認ムルトキハ臨時港内ニ進入スルコトヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十六條 海軍部外ノ者ニシテ此規則ニ從ハサル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス



○農商務省令第十號
 明治十七年第十三號布達商標登錄願手續第二條第五條第七條ノ手数料及同十八年第五號布達專賣
 特許手續第二條第七條第十一條ノ免許料ハ出願ノ日ヨリ三日以内ニ納ムヘキコトニ改正ス
 明治十九年九月七日
 農商務大臣伯爵山縣有朋

○海軍省令第百六號
 浪速高千穂艦定員別表ノ通改定ス
 但別表ハ別ニ頒ツ (別册略ス)
 明治十九年九月十一日
 海軍一級
 海軍大臣伯爵大山 巖

○外務省令第二號 (官報 九月十四日)
 朝鮮國在勤外務省巡查給與規則ヲ定ムルコト左ノ如ク
 明治十九年八月一日
 外務大臣伯爵井上 馨

第一章 奉職年限ノ事
 第一條 在朝鮮國公使領事館附巡查奉職ノ者ハ必ス滿三箇年以上引續在勤スヘキ者トス三箇年未
 滿ノ者ハ辭職ヲ願出ツルモ之ヲ許サス
 但疾病其他已ムヨ得サル事故アリ職務ニ從事スルコト能ハサルモノト公使又ハ領事ニ於テ認定
 スルトキハ三箇年未滿ト雖トモ其職ヲ免シ歸國センムルコトアルヘシ
 第二章 俸給ノ事
 第二條 朝鮮國公使領事館附巡查月俸ハ第壹號表ノ通支給スヘシ

但一月ヲ前後ニ分チ新任十五日前ニ在ル者ハ其全額十六日後ハ半額昇等増給モ亦準之降等及免職ノ者十五日前ニ在ルトキハ尙舊等俸ノ半額ヲ給シ十六日後ハ全額ヲ給スヘシ

第三條 拜命ノ者ニハ出發前滯京及本邦任所往返旅中共月俸全額ヲ支給スヘシ

第四條 巡查在勤滿三箇年以上ニシテ許可ヲ得賜暇歸朝スル者ニハ前條ニ準シ旅中及滯京中共月俸全額ヲ支給スヘシ

但賜暇日數滿チ歸任ノ際疾病ニ依リ出發ヲ延期スル者ハ其延期スル日數ハ月俸半額十五日分後ヲ四分ス若シ官ヨリ延期ヲ命スルモノハ全額ヲ支給スヘシ

第三章 在勤月手當ノ事

第五條 朝鮮國在勤中ハ第貳號表ノ在勤月手當ヲ支給スヘシ

第六條 在勤月手當ハ任所著發十五日前後ヲ區分シ月割支給スルモノトス

第四章 支度料ノ事

第七條 朝鮮國公使領事館附巡查拜命ノ者ニハ出發前支度料トシテ第三號表ノ通支給ス此支度料ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限り之ヲ支給ス歸朝滯京中任所替ヲ命スルモノヲ給セス

第八條 出發前官ノ都合ヲ以テ在勤ヲ免シ及出發前轉任或ハ死去スル者ニハ右支度料ノ半額ヲ支給ス願ニ依リ免シタル者ニハ一切支給セス

第五章 旅費ノ事

第九條 東京ヨリ各任所へ往返スル者ニハ費用條例細則申號表(二等)ノ旅費ヲ支給ス右ヲ以テ各任所間船車賃旅具運搬解人足賃等一切ノ旅費ヲ賄フヘシ

但精算ヲ要セス

第十條 他府縣ヨリ各任所へ往返スル者ノ旅費ハ現場仕拂ノ精算ニ依テ之ヲ支給ス尤本籍ヨリ乘

船ノ港本籍ヨリ最近ノ港ヲ指ス迄ノ陸路旅費ハ其里數ニ應シ一日十里詰ノ割ヲ以テ日當金五拾錢ト定ム故ニ旅中經歷書等明細取調差出スヘシ

但此經歷書ニハ各所發着ノ日限並滯留ノ日數及事由乗船ノ名號等詳細明記スルモノトス

第十一條 私用荷物ノ運賃ハ貳拾貫目迄官費ヲ以テ之ヲ仕拂其以上ハ自辦タルヘシ

第十二條 現場仕拂ノ精算帳ニハ實費請取證書ヲ添付スヘシ若シ請取證書取難キ場合ニ於テハ其事由ヲ記シタル證明書ヲ本人ヨリ差出サセ其館長官於テ不相當ノ廉無之ト認ムルトキハ之レニ捺印シ以テ證書ニ代用スヘシ

第十三條 第二十條ノ場合ニヨリ支給スル歸國旅費ハ在勤ノ地ヨリ本籍ニ近キ港大阪長崎博多下迄ノ下等船客料上陸ノ地ヨリ本籍迄ハ陸路每十里日當五拾錢ト定ム

但旅中經歷書差出方ハ第十條ニ同シ

第十四條 第一條但書ノ場合ニ於ケル歸國旅費ヲ給スルト否ニ關シテハ公使或ハ領事ヨリ其事情ヲ具シ外務大臣ノ裁令ヲ請フヘシ

第六章 旅行日當ノ事

第十五條 各任所往返ノ日數間ハ第三號表中ノ旅行日當ヲ給ス故ニ途中定期郵船滯泊内地各港ノ節一時上陸スルモ解車賃及旅舍賄料ハ之ヲ支給セス

第十六條 各任所へ官船或ハ官ノ雇船ニテ往返スル者ニハ船客料ヲ給セス第三號表中官船渡海日當同賄料ヲ支給スヘシ此渡航中ハ前款ノ日當ヲ支給セス

第十七條 任所往返中船破損スルカ或ハ船便待合セ其他非常ノ事故アリテ途中ニ滯留スル者ニハ第三號表ニ照ラシ滯留賄料ヲ給ス尤モ内地滯留ニ係ル日數間ハ前款ノ旅行日當ヲ支給セス

第七章 旅行雜費ノ事

第十八條 朝鮮國在勤ノ巡查公用ニテ其國內旅行スル者ニハ任所出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄ヲ算シ
第三號表中ノ旅行雜費ヲ支給ス右ヲ以テ賄料等旅中ニ起ル所ノ雜費ヲ取賄フヘシ尤人馬船車賃
ハ現場任拂ノ上其精算帳ヲ差出スヘシ

但此精算帳ヘハ旅行ノ正路及發着日限トヲ詳細記載シタル旅中經歷書並實費請取證書ヲ添フ
ヘシ

第八章 任所替ノ事

第十九條 在勤中任所替ヲ命セラレタル者ニハ辭令拜受ノ日ヨリ新任ノ俸給ヲ支給シ甲地出發ヨ
リ乙地着迄旅費ハ第五章日當ハ第六章ニ照ラシ支給スヘシ

第九章 賜暇ノ事

第二十條 巡查在勤滿三箇年已上ノ者ニハ公使或ハ領事ニ於テ公用ノ都合ヲ見計ヒ往返ヲ除クノ
外二箇月間休暇ヲ得テ歸朝スルコトヲ許ス此往返旅費日當ハ第五章第六章ニ照ラシ支給ス尤本人
ノ情願ニ依リ出京セ直ニ歸省スル者ニハ第五章第十條ノ通其郷里迄ノ旅費ヲ給ス

但往返ノ途次願濟ノ上歸郷スル者ハ順路ノ日數ヲ除キ其餘ノ日數ハ賜暇日限内ヘ加算スヘシ

第十章 負傷者免職旅費及扶助料ノ事

第二十一條 公務上傷瀆ヲ受ケ職務ニ堪ヘ難ク免職スル者ニハ在勤年數ニ拘ハラヌ第九條第十三
條ニ照ラシ巡查給助例ニ拘ハラヌ特ニ歸國旅費ヲ給ス

第二十二條 公務上死傷吊祭扶助療治料等ノ儀ハ明治十五年七月十七日太政官達第四十一號巡查
給助例ニ據テ之ヲ支給スヘシ

第十一章 海外於テ死亡セシトキノ事

第二十三條 巡查任地ニ於テ死亡シタルトキハ官ヨリ埋葬費及墓碑建設費ヲ支給スヘシ

第十二章 懲罰ノ事

第二十四條 職務ヲ惰ル者アルトキハ之ヲ明治九年八月五日內務省乙第九十二號巡查懲罰例ニ照
シ公使或ハ領事ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十三章 補缺員ノ事

第二十五條 巡查缺員ノ時實際之ヲ補缺セサルヲ得サル場合ニ於テハ公使或ハ領事ニ於テ先ツ一
箇月極メテ以テ相當ノ者可成巡查採用ノ者ヲ雇用シ其旨ヲ具申スヘシ
但該雇ノ者ニハ月給拾五圓以内ニシテ月手當ヲ給セシ

第一號

朝鮮國在勤巡查月俸表

巡	查	月俸
金	貳拾圓	マ
金	貳拾圓	マ

第二號

朝鮮國在勤巡查月手當表

巡	查	京城仁川元山	釜山
金	貳拾圓	マ	マ
金	貳拾圓	マ	マ

第三號

官	名	支度料	旅行日當	官船渡海	官船乘組并本邦或朝鮮國內或ル	朝鮮國內
巡	查	三拾圓	三拾錢	四拾錢	三拾五錢	壹圓

○海軍省令第七號

海軍一殿

明治十八年^{十二}丙第六十六號達別冊中別紙ノ通追加ス

但別紙ハ別ニ頒布ス (別紙略ス)

明治十九年九月十四日

海軍大臣伯爵大山 巖

(參照)明治十八年^{十二}海軍省丙第六十六號達

海軍一殿

陸海軍喇叭同喇叭譜日次同喇叭譜所用區分表同喇叭吹奏歌別冊ノ通相定メ其喇叭形狀ノ議ハ別紙圖面ノ通收製俵檢此旨相達候事

但別冊別圖ハ追テ總務局ヨリ配付シ且本支實施期日ハ追テ可相達事 (別冊別圖略ス)

○農商務省令第十一號

農商務大臣伯爵山縣有朋

獸類傳染病豫防規則左ノ通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年^月ニ內務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

明治十九年九月十五日

獸類傳染病豫防規則

第一條 此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽熱
- 三 鼻疽及皮疽
- 四 傳染性胸膜肺炎
- 五 傳染性鵝口瘡

六 羊痘

第二條 獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條 獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第四條 獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條 第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スヘシ

評價金二十五圓マテ	手當金評價十分ノ四
評價金五十圓マテ	同 十分ノ三
評價金百圓マテ	同 十分ノ二
評價金二百五十圓マテ	同 十分ノ一
評價金五百圓マテ	同 十五分ノ一
評價金千圓マテ	同 二十五分ノ一

第六條 獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第七條 第三條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第八條 傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戶長役場ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル

飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋没スヘシ

但埋没シタル場所ハ十二箇年ノ後ニアラサレハ發掘スルヲ得ス

第十條 傳染病者及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其忠告ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條 道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サズ

第十二條 傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及豕馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 第三條第六條第八條ノ届ヲ受ケタル戶長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳警視廳 北海道廳 府縣ニ届出ツヘシ

第十四條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示シ且近接ノ地方廳ニ報告スヘシ

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示スヘシ

第十五條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ届ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ届ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ農商務大臣ノ允許ヲ得テ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得

第十七條 牛疫蔓延ノ際ニ限リ其忠告ニ接近シタル牛ハ假令健康ノモノナリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ農商務大臣ノ允許ヲ經タル後之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ全額ヲ下付スヘシ

第十八條 牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ農商務大臣ノ允許ヲ得タル後其忠告ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○陸軍省令乙第二百二十九號
外宿下士卒病弱減給表乘率別表ノ通相定候條自今該表ニ依リ減額スヘシ (別表略ス)

明治十九年九月十八日
○陸軍省令乙第二百三十號
市田兵本部職官定員表別表之通改定ス (別表略ス)

明治十九年九月二十二日
○陸軍省令乙第二百三十一號
今般步砲兩兵科士官補欠ノ爲メ臨時學生ヲ置キ要用ノ學術ヲ修學セシメ卒業試驗ニ於テ及第ノ者ヲ少尉ニ任用ス

但學生人員ハ步兵三十名以内砲兵十七名以内トス

明治十九年九月二十四日
陸軍大臣伯耆大山 巖

○海軍省令第百八號

海軍一號

海軍艦船造修規則ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治十九年九月二十五日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍艦船造修規則

- 第一條 凡艦船ヲ製造スルトキニハ艦船ノ種類、速力、裝砲ノ種類、員數等重大ノ件ヲ豫定シ艦政局ヲシテ船體機關兵裝及端舟ノ圖案其製造方法書其他計畫ニ係ル諸目錄並其入費概算書ヲ調製セシム
- 第二條 新艦ノ乘組定員表ハ軍務局ヲシテ艦政局ト合議シ之ヲ製セシム
- 第三條 艦政局ヲシテ調製セシメタル諸圖案並ニ製造方法書等其造船ニ係ルモノハ鎮守府ニ兵器ニ係ルモノハ兵器製造所ニ下附ス鎮守府ニ於テハ船體機關等ノ入費及落成期限ヲ概算シ模型ヲ製シ又兵器製造所ニ於テハ兵器ノ入費及落成期限ヲ概算シ進達ス可シ
- 第四條 前條ノ書類及模型ハ艦政局ヲシテ審査セシメ然ル後各主務廳ヲシテ製造若クハ購買セシム鎮守府ニ於テ製造ノ命ヲ受ケタルトキハ其艦船ノ各部ニ係ル細圖ヲ調製シ以テ製造ニ着手ス可シ但時宜ニ由リ細圖ノ或ル部分ハ艦政局ヲシテ計畫セシムルコトアル可シ
- 第五條 鎮守府ハ艦船製造中時々其工事ノ景況ヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ
- 第六條 艦船製造中艦政局ニ於テ船體機關部等ノ改造若クハ新設ヲ必要ト認ムルトキハ其圖案ヲ呈出ス可シ
- 第七條 鎮守府ニ於テ成圖或ハ製造方法書及目錄中ニ示ス諸部ノ内改正ヲ必要ナリト認ムルモノアルトキハ艦政局ヘ照會シ熟議ノ上其理由及改正ニ由テ生スル入費ノ増減ヲ附シ海軍大臣ニ届出ツ可シ

第八條 鎮守府ハ艦船ノ製造全ク落成シ諸兵器ヲ裝備シ諸器具ヲ積載シ消耗品ヲ積載セサル時期ト消耗品ヲ總テ積載セル時期トヲ艦政局ニ報告スヘシ艦政局ハ該艦船并ニ兵裝ヲ検査シ重點ノ試験ヲナシ航海シ得ルニ至リタルトキハ立會員ヲ派遣シ鎮守府ヲシテ公試運轉并ニ裝砲水雷發射試験ヲ施行シ其成績ヲ報告セシム

第九條 造船部長豫備艦總理或ハ艦船長改造若クハ新設ヲ要スル箇所ヲ發見シタルトキハ精密ニ之ヲ調査シ事由明細書ヲ附シ所管長官ニ具申ス可シ

第十條 艦隊司令長官司令官其部下艦船長ヨリ改造若クハ新設ニ係ルコトノ具申ヲ受ケ之ヲ至當ト認ムルトキハ其艦船長ヲシテ鎮守府司令長官ニ検査ノコトヲ要求セシムヘシ

第十一條 鎮守府司令長官其部下或ハ艦隊艦船ヨリ改造若クハ新設ニ係ル申請ヲ受ケタルトキハ其所要ノ箇所ヲ検査シ工業日數ト入費ヲ概算シ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ着手シ其起工竣工ノ時日ハ其時々海軍大臣ニ届出ツ可シ但其費額五千圓以上ニ及フモノハ着手ノ緩急ヲ海軍大臣ニ伺出ツ可シ

第十二條 造船部長豫備艦總理艦船長艦船ノ修理若クハ修理ノ際僅少ノ改造ヲ要スルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ精密ニ調査シ事由書ヲ附シ所管長官ニ具申スヘシ

第十三條 艦隊司令長官司令官其部下艦船長ヨリ修理若クハ僅少改造ノ具申ヲ受ケタルトキハ其當否ヲ詳ニシ緩急ヲ量リ至當ト認ムルモノハ艦船長ヲシテ其着手ヲ鎮守府ニ要求セシム可シ

第十四條 鎮守府司令長官其部下或ハ艦隊艦船ヨリ修理若クハ僅少改造ノ申請ヲ受ケタルトキハ其所要ノ箇所ニ就キ要否ヲ検査シ必要ト認ムルトキハ其工業日數ト入費ヲ概算シ海軍大臣ニ届出以テ着手シ其起工竣工ノ時日モ亦其時々海軍大臣ニ届出ツ可シ

第十五條 所管長官遠隔ノ地ニアリ艦船修理ノ箇所ニシテ擱キ難キモノハ直ニ艦船長ヨリ鎮守府

ニ申請シ然ル後所管長官ニ届出所管長官ハ海軍大臣ニ届出ツ可シ

第十六條 鎮守府ハ修理ノ入費金額五千圓以上ニ及フモノハ其検査ノ實況工業ノ日數及概算ノ費額ヲ海軍大臣ニ具申シテ裁可ヲ受クヘシ

第十七條 鎮守府ニ於テ修理ニ着手シタル後豫算外ノ修理ヲ要スル箇所ヲ發見シ擱キ難キトキハ直ニ之ニ着手スルコトヲ得此場合ニ於テモ其工業日數ト概算入費トヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ但發見ノ修理費ト豫算ノ修理費ト合計シ其額五千圓以上ニ及フトキハ第十六條ノ手續ヲ爲ス可シ

第十八條 鎮守府ハ前二條ノ場合ニ於テ五千圓未滿ノ工事ト雖モ艦政局ニテ定メタル豫算年額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條 鎮守府ハ改造新設及修理ノ工業日數ト費額トヲ艦船長ヘ通報ス可シ

第二十條 艦船造修費ハ艦政局ヲシテ管理セシメ會計局ヲシテ出納セシム

第二十一條 艦船造修費ハ鎮守府主計部(作業部ニ在テ)ヨリ毎三箇月計算書ヲ以テ艦政局ニ請求ス可シ艦政局ハ其別途費支辨ニ屬スルモノハ同局ニ於テ支拂ヒ經費ニ屬スルモノハ會計局ニ共支拂方ヲ通報シ會計局ハ該主計部(作業部ニ在テ)ニ支拂フモノトス而シテ主計部(作業部ニ在テ)ハ毎三箇月以内ニ其精算書ヲ艦政局ニ出シ艦政局ハ之ヲ審査シテ會計局ニ送付スヘシ

第二十二條 艦船派遣中海軍造修船部所ノ設ケアツサル諸港ニ於テ修理ヲ要シ其入費五拾圓未滿ナルトキハ艦船長限リ之ヲ處分シ其事由明細書ニ工業日數ト入費書トヲ添ヘ所管長官ニ届出所管長官ハ之ヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ又其入費五拾圓以上ニ及フモノハ修理ノ事由明細書ト入費書トヲ添ヘ所管長官ニ具申シ所管長官ハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ其許可ヲ得ヘシ但其入費五拾圓以上ト雖モ艦船ノ安危ニ關スル場所或ハ航行ヲ妨クル場所等ニシテ臨時至急ヲ要スルトキハ艦船長之ヲ處分シ而シテ其事由明細書ニ工業日數ト入費書トヲ添ヘ所管長官ニ届出ルコトヲ得

第二十三條 鎮守府ハ艦船造修ノ工事豫定ノ日數アルモ更ニ至急落成セシムヘキ命令アルトキ或ハ工事多端ニシテ速成ノ見込ナキトキハ工事ヲ分裂シ他ノ製造場ニ委托スルコトヲ得此場合ニ於テハ造船部員ヲシテ監督セシム可シ

第二十四條 鎮守府ニ於テ艦船改造若クハ新設ノ工事落成シ其試験ヲ要スルトキハ之ヲ艦政局ニ照會ノ後施行シ而シテ其成績ヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ艦政局ハ時宜ニ由リ立會員ヲ派遣スルコトヲ得

第二十五條 鎮守府ニ於テハ艦船ノ改造若クハ新設ノ工事落成シ其試験ヲ要セサルト認ムルモ該艦船ノ所轄ニ於テ其試験ヲ要スルト認ムルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ裁可ヲ得可シ而シテ試験ヲ施行シタルトキハ其成績ヲ届出ツ可シ但時宜ニ由リ艦政局或ハ鎮守府ニ命シテ立會員ヲ派遣セシムルコトアル可シ

第二十六條 艦船ノ改造若クハ新設ノ工事落成シ鎮守府并該艦船ノ所轄ニ於テ其試験ヲ要セサルト認ムルモ艦政局ニ於テ其試験ヲ要スルト認ムルトキハ局長ノ具申ニ依リ局員ヲ派遣シ之ヲ實施セシム可シ

第二十七條 艦船ノ修理落成シ鎮守府若クハ該艦船ノ所轄ニ於テ其試験ヲ要スルト認ムルトキハ其議ノ上之ヲ施行シ其成績ヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ

第二十八條 改造新設及修理ノ工事中ハ鎮守府ヨリ時々其狀況ヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ但海軍部外ノ造船所ニ於テ該工事を爲ストキハ艦船長ヨリ所管長官ニ届出テ所管長官ハ之ヲ海軍大臣ニ届出ツ可シ

第二十九條 艦政局ニ於テ艦船ノ總検査ヲ要スルト認ムルトキハ其期限ヲ定メテ海軍大臣ニ具申ス可シ之ヲ實施スルトキハ艦政局ヲシテ立會員ヲ派遣セシム共ニ検査ヲ爲サシム鎮守府ハ其實

況ヲ届出同時ニ該検査ニ由テ生スル修理改造若クハ新設ノ方策ニ其工業日數ト概算ノ入費トヲ添ヘ之ヲ海軍大臣ニ呈出シ裁可ヲ得可シ

第三十條 鎮守府ニ於テ艦船ノ修理検査ヲ爲ス際其總検査ヲ要スルト認ムルトキハ緩急ヲ量リ之ヲ海軍大臣ニ具狀ス可シ

第三十一條 鎮守府所轄外ノ製造場ニ命シテ艦船ヲ製造修理若クハ改造新設ヲナサシムルトキハ艦政局ヲシテ之ヲ擔任セシム

○海軍省令第九號

海軍一般 北海道廳 府縣

十九年度以後海軍下士卒家族扶助金ハ大藏省令第五號歲出取扱順序第二章ノ手續ニ依リ支出スヘシ

但經費所管廳長官ノ事務ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ取扱ヒ費額ハ家族扶助金下渡期節ニ臨ミ同官ヨリ廳府縣ニ通牒シ廳府縣ニ於テハ本文順序第四十二條以下ノ手續ニ據テ取扱フモノトス
明治十九年九月二十五日 海軍大臣伯喬大山 巖

○內務省令第十六號

廳府縣 集治監 假留監

明治八年^{九月}當省乙第百十五號達府縣官員異動屆○九年^{三月}同乙第二十八號達十年^{七月}同乙第六十一號達十七年^{四月}同乙第二十二號達一般人民警察上賞與施行表及ヒ警察吏員吊祭扶助療治料施行表及ヒ一般人民吊祭扶助療治料施行表○九年^{十月}同乙第百三十六號達但書官沒品取扱方ノ件○十年^{三月}同乙第三十四號達中人民所藏ノ軍用銃砲彈藥獻納處分濟屆○十一年^{三月}同乙第三十一號達警察署明細書○十二年^{一月}內藏乙第六號達勸業委託金出納當省へ報告ノ分○十二年^{六月}當省乙第三十一號達未項十五年^{十一月}同乙第五十九號達但書神官住職任免死亡○十三年^{四月}同乙第十六號達祠官祠堂犯罪○十三

年^{十一月}內藏第三十八號達第十一條備荒儲蓄三箇月報當省へ報告ノ分○十三年^{十一月}當省乙第四十六號達巡查懲罰金賣淫罰金巡查還納被服類及警察木分署不用品賣却代處分方○十五年^{三月}同乙第十七號達賣淫罰金支拂届出ノ内未項尤以下二十一字○十五年^{十一月}同乙第六十四號達神社附屬ノ講社結集○十五年^{十一月}同甲第三六二號達地方稅經濟ニ屬スル土地調及地方稅經濟中府縣廳官舎其他建物調及官舎倉庫將來使用ノ見込アル分人民へ貸渡願末○十六年^{三月}同乙第三十三號達在監人中傳染病患者一周申報○十六年^{四月}同乙第十三號達遺失物公賣金前年度分○十六年^{五月}同乙第二十號達傳染病患者申報○十七年^{三月}同訓示看守押丁賞與屆○十七年^{五月}同乙第二十六號達但書賭博犯過料金納付濟○十八年^{五月}同甲第十五號達警察費及警察廳舎建築修繕費原案額○十九年^{二月}同甲第四號及乙第一號達徒流刑禁獄及懲役終身等ノ囚徒變死以上二十件
右廢止ス

內務大臣伯喬山縣有朋

○內務省令第十七號

廳府縣 憲兵本部

內務報告例別冊ノ通相定メ本年分ヨリ施行ス

集治監 假留監

但本例ニ矛盾スル従前ノ諸式ハ廢止ス

明治十九年九月二十七日

內務大臣伯喬山縣有朋

(別冊)

內務報告例

凡例

第一條 報告例ハ警視廳北海道廳府縣廳及憲兵本部集治監假留監ニ於テ法律命令ヲ執行シ或ハ權

内ノ事務ヲ處分シタル事項ニ就キ緩急輕重ニ從ヒ報告スヘキ順序ヲ示スモノナリ

第二條 従前本省各局長ノ名ヲ以テ報告ヲ求メ來タリシ者アリト雖モ自今ハ一切本例ノ式ニ循ヒ本省ニ報告スヘシ

第三條 報告ヲ分テ豫報即報月報季報半年報年報ノ六種トス但事倉卒ニ起リ瞬間モ關ク可ラサル者ハ固ヨリ此例外トス

第四條 豫報ハ將來日月ヲ期シテ舉行スヘキ者又ハ事變ノ兆候ヲ偵知シタル時之ヲ未然ニ報スル者月報ハ毎月季報ハ毎三箇月半年報ハ每半年(會計年度ニ關スル者ハ上下半年度ニ分ツ)年報ハ一箇年(會計年度ニ關スル者ハ一周年度)ニ係ル事項ヲ報告スル者トス

第五條 例目中部門ヲ分チ従前ノ即報ヲ月報ニ月報ヲ半年報若クハ年報ニ改ムル者アリ又之ニ反メルアリ各其定ムル所ニ依ルヘシ

第六條 報告書差出期限従前定期アル者ト否トヲ問ハス總テ例目ノ下欄ニ於テ指定シタル時日ニ於テ各地ヲ發送スル者トス但即報ハ即時即日若クハ事ヲ了シタル日ヨリ三日以内ニ發送スヘシ

第七條 報告ノ料紙ハ(表式ノ料紙ハ第八條ニ依ル)他ノ文書ト混同セサル爲メ左ノ縦形ノ通邊線ノ野紙ヲ用非六種ニ通用スヘシ

第八條 各報告ノ記載方一事件毎ニ紙頁ヲ改メ纏メテ一括トナシ目錄ヲ料紙ニ記シ添付スヘシ

第九條 諸表ノ格式ハ各項ニ因リ大小廣狹アリ豫メ一定シ難シト雖モ成ルヘク美濃紙一葉ニ調製スルヲ要ス其短縮シ得ヘキ者ハ半葉ニ調製スヘシ但諸表諸圖面共編綴ノ爲メ四隅ニ餘白ヲ存ス可シ

第十條 格式ニハ横線ノミヲ示スモノト雖モ進邊ノ表ニハ縦線ヲ加フヘキ者トス又登記スヘキ事項ナキ空欄アラハ「」ヲ填寫シテ脱漏ニ非ラサルヲ證ス可シ

第十一條 諸表格式ハ已ニ頒布ノ者ト雖モ執務者ノ便ヲ圖リ茲ニ彙集シテ本例ニ編入ス若シ今後

令訓ニ依リ原則ノ改正ニ係ルコトアル時ハ延テ本例ニ及フモノトス

第十二條 茲ニ示ス所ノ例目中従前ノ令訓ニ出ルモノ、外價例ニ因リ或ハ特ニ報告ヲ要スルモノ等ニシテ其式ヲ設ケサルモノハ適宜調製ス可シ

第十三條 凡各屬ノ經費豫算決算等ニ關スル諸報告ハ別ニ定リタル規則ニ依準ス可シ

内務報告例目

- | | | | |
|-----|-------------------|----|-----------------------------|
| 第一 | 府縣會開設 | 適用 | 發送期日 |
| 第二 | 府縣會ニ撥付スヘキ議案 | | 明治十七年十二月五日(庶務第九一六號)訓示 |
| 第一 | 管内布達諸件 | | |
| 第二 | 廳府縣分課廢置 | | |
| 第三 | 郡區長委任條件 | | |
| 第四 | 臨時府縣會及常置委員急施會決議諸件 | | |
| 第五 | 營業稅雜種稅課目課額 | | 十三年第十七號布告第八條及十五年十二月乙第七三號內務達 |
| 第六 | 府縣會閉場 | | |
| 第七 | 議長副議長改選 | | 十三年四月第十五號布告府縣會規則第十一條 |
| 第八 | 府縣會開設中景況 | | |
| 第九 | 地方ニ於テ定メタル違警罪目 | | 十四年八月第七十七號公達 |
| 第十 | 火藥類買賣營業免許並火藥庫設置許可 | | 十八年一月第一號公達第二項 |
| 第十一 | 銃砲買賣營業免許 | | 五年正月第二十八號布告 |

第十二	囚人ノ特赦特典等	十四年十月第八十一號公達監獄則第二十五條及第五十八條	
第十三	集會條例違犯者處分	十三年五月六日番外達	
第十四	囚徒反獄越獄及逃走	十七年四月四日內達	
第十五	假出獄停止	十八年九月司法省丙第七號	
第十六	假出獄停止 及酒後終身囚徒收監獄	十七年八月十五日假留監へ達	
第十七	警察署諸裁判所等ノ位置ノ圖面	十五年二月乙第十號達	
第十八	國庫ノ補助ヲ要スル土木工事落成	十八年三月壬丁第三號達	
第十九	國縣道竣工	十九年五月省令第四號	
第二十	傳染病流行ノ徵候	十九年三月省令第一號第十八項	
第二十一	避病院ノ開設	同上第十九項	
第二十二	檢疫委員ノ設置	十五年十月乙第五十六號達	
第二十三	警察費警察廳舍建築修繕費豫算議決額	十六年五月十日訓示	翌月十日
第一	新聞紙(雜誌)發行高	十九年五月省令第七號	翌月十五日
第二	在監人月末現在	十八年三月外第一七三號及同年十二月發第三七號地理局長通知	四、七、月十日
第三	官沒地	十九年三月省令第一號第五、第八、第九、第十、第十二、第十四、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百號	四、七、月十日
第一	土地增減	同上	同上

第二	土地貸渡	十九年三月省令第一號第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百號	同上
第三	地租目變換	同上	同上
第四	傳染病患者	同上	同上
第五	同上在監人患者	同上	同上
第一	新聞紙雜誌開廢業及定期變更	十九年三月省令第一號第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百號	七月二十日
第二	廳府縣官及郡區町村吏	同上	同上
第三	地方事務並ニ管内ノ景況	同上	同上
第四	河川港灣土木竣工	八年一月乙第四號達	同上
第五	國縣道道幅取擴落成	十九年三月省令第一號	同上
第六	中海	十一年十二月乙第八十八號達	同上
第七	社寺ノ改稱及移轉廢合	十二年九月乙第五十七號達	七月三十一日
第八	官社社入金遺拂並豫備蓄積金處分	十八年五月甲第十六號達	同上
第九	官社經費ヲ以テ常用器品新調修繕處分	同上	同上
第十	官社不用ノ建物古材賣却處分	同上	同上
第十一	官社社營建物改造修繕處分	同上	同上

第十二	官社寄付物品處分	同上	同上
第十三	官社神官派出出京養病歸省處分	同上	同上
第十四	社寺廢合跡建物處分	同上	同上
第十五	社寺什物祠堂金處分	同上	同上
第十六	社寺官有地境内木竹伐採處分	同上	同上
第十七	社寺明細帳ノ異動	十二年六月乙第三十一號逕取關心得 第十二項	同上
第十八	離末本寺換	十一年二月乙第八號逕	同上
第十九	社寺創立再興復舊建築火災	十五年十一月乙第五十九號逕ノ後半	同上
第二十	同上建設延期	十九年三月省令第一號第四項	同上
第二十一	社寺由緒アル地所建物處分	同上第三項	同上
年報			
第一	戶口表	十九年五月省令第三號	三月二十日
第二	人口出入表	同上	同上
第三	本籍人別表	同上	同上
第四	本籍生年別人口表	同上	同上
第五	本籍出生死亡及婚姻表	同上	同上
第六	市街及島嶼現住人出生死亡表	同上	同上
第七	就除籍送入籍及逃亡失踪表	同上	同上
第八	耕作及捕魚採礦業戶數表	同上	同上
第九	賞與施行表	十八年十二月内閣甲第三十八號逕	三月二十日 初六日 三月二十日 二月二十日

第十	死亡者年齡區分表	十八年十月甲第三十三號逕	四月二十日
第十一	濟貧恤窮施行表	十五年十一月乙第六十二號逕	二月二十日
第十二	行旅死亡人埋葬表	十五年十一月乙第六十一號逕	四月二十日
第十三	藥兒並養育費	十六年五月乙第二十三號逕	二月二十日
第十四	通常府縣會決議諸件		一月三十一日
第十五	地方稅一周年度出納決算	十三年第十六號市告第七條十五年十二 月乙第七十二號逕	十一月三十日
第十六	備荒貯蓄金總出納精算	十三年十一月内閣乙第三十八號逕	二月二十日
第十七	區町村費收支取調	十八年九月甲第二十九號逕	翌年度末
第十八	府縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル者	十四年十二月乙第六十號逕	四月二十日
第十九	地方稅ノ經濟ニ於テ土地建物ノ買上及拂下	十九年三月省令第一號第十四項	二月二十日
第二十	府縣官舎ノ内官宅警察署郡區役所等ノ建築	同上第三十二項	同上
第二十一	警察區畫及配置官吏	十九年五月省令第七號	同上
第二十二	盜難及盜難物	同上	同上
第二十三	盜匪物發見ノ事由及品目	同上	四月二十日
第二十四	火災	同上	同上
第二十五	變死及藥兒	同上	同上
第二十六	自殺者ノ年齡及因由	同上	同上
第二十七	自殺者ノ所爲	同上	同上
第二十八	殺害セラレシ者ノ因由	同上	同上
第二十九	賭博犯ノ件數及人員	十九年五月省令第七號	二月二十日

第三十	賭博犯處罰人ノ懲罰及過料	同上	同上
第三十一	賭博犯處罰人ノ犯數及年齡	同上	同上
第三十二	就捕犯罪人員	同上	同上
第三十三	救護	同上	同上
第三十四	監視人員	同上	四月二十日
第三十五	取締ニ關スル諸營業	同上	同上
第三十六	娼妓貸座敷業及密賣淫者ノ處罰	同上	同上
第三十七	警察上ニ死傷セシ人員	同上	二月二十日
第三十八	警察上ノ褒賞及給助	同上	同上
第三十九	監獄吏及雇	同上	同上
第四十	某監獄 在監者ノ府縣別及無籍者ノ年齡	同上	三月二十日
第四十一	未決者ノ出入及在監罹病延人員	同上	二月二十日
第四十二	已決囚ノ出入及在監罹病延人員	同上	同上
第四十三	刑名ニ對スル已決囚出監時遷善ノ狀況	同上	同上
第四十四	已決囚出監時遷善ノ狀況及年齡等ノ關係	同上	同上
第四十五	在監人ノ作業	同上	同上
第四十六	懲治者ノ出入及在場罹病延人員	同上	同上
第四十七	新入懲治者ノ入場度數及年齡等ノ關係	同上	同上
第四十八	懲治者出場時遷善ノ狀況及工技學藝ノ進否	同上	同上
第四十九	別房留置者及携帶乳兒ノ出入延人員	同上	同上

第五十	在監人ノ賞與及懲罰	同上	同上
第五十一	在監人ノ死亡	同上	同上
第五十二	在監人工錢ノ收入及給與	同上	五月二十日
第五十三	請願巡查費用收支	十四年四月乙第三十二號達	十一月三十日
第五十四	火藥營業者ノ賣買シタル種類數量	十八年一月第一號公達第三項	一月二十日
第五十五	土木工費總計表	十九年二月甲第三號達	九月二十日
第五十六	風水害表	十五年九月乙第四十九號達	十月二十日
第五十七	種痘明細表	十九年三月省令第三號	四月二十日
第五十八	醫事及娼妓徵毒検査表	同上	同上
第五十九	阿片賣買時許藥舖鑑札下付	十九年三月省令第一號第十五項	同上
第六十	阿片製造鑑札下付	同上第十六項	同上
第六十一	劇藥配伍ノ賣藥許否	同上第十七項	同上
第六十二	土地ニ關スル收入未收入	十四年二月乙第十一號達普通官有地ニ屬スル收入總計及十八年九月內農商省第三十九號達	出納閉鎖後一月以內
第六十三	外國人貸地收入未收入	同上	同上
第六十四	神社拜神官	十二年六月乙第三十三號及十八年七月甲第三十三號達	二月二十日
第六十五	寺院佛堂拜住職	同上	同上
第六十六	社寺官有地境內木竹伐採數	同上	同上
第六十七	古社寺保存資金下付ノ監護	時々ノ訓令ニ依ル	十二月二十日
第六十八	神佛教務所說教所現數	十七年十月乙第三十七號及十八年七月甲第三十三號達	二月二十日

貸渡ノ部		返地ノ部	
地名	目	使用日期	限
合計	元不納課目	元不納課目	元不納額
	地租	地方税	備蓄資金
	區町村費	地租以下	連帶
合計			

地名 目 貸渡年月 段別(坪) 一箇年 借地料 收入料金 同上ノ月日 元不納課目 返地ノ姓名

一 區町村費不納ニ係ルモノハ官沒スヘキモノニアラサレトモ地租地方税等ト連帶不納スルヲ以テ本表ノ中ニ記載スルモノトス以下之レニ同シ
 一 徵發令ニ據リ官沒セシモノアレハ一欄ヲ設ケ之ヲ記載スヘシ
 一 元不納額トハ錢ニ官沒セラレタル當時ノ不納額ヲ云フ
 一 貸渡ノ部貸地料ノ一箇年ニ滿タサルモノハ其期限中ノ借地料ヲ記入スヘシ以下同シ
 一 元不納課目ハ地租地方税備蓄資金及ヒ地租以下連帶ノ五項ニ區別スヘシ

報 季		第一	
地 名	舊地種目	新地種目	段 別(坪)
寄附月日	寄附月日	寄附月日	寄附月日
事 由	事 由	事 由	事 由
合計	合計	合計	合計

土地増減 (前略 係第何季) 廳 名

寄附土地ノ部 普通官有地ニ屬スル分

同 地方税經濟ニ屬スル分

合計		買上ノ部 普通官有地ニ屬スル分		合計		同 地方税經濟ニ屬スル分		合計		拂下ノ部 普通官有地ニ屬スル分		同 地方税經濟ニ屬スル分				
地名	舊地種目	新地種目	段別(坪)	代金	買上月日	事	山	地名	舊地種目	新地種目	段別(坪)	代金	拂下月日	事	山	無代下渡ヲ受タル氏名
合計								合計								
同 地方税經濟ニ屬スル分																

一 本表以下土地ニ關スル諸表總テ農商務省ヘ報告スル山林原野ノ如キハ記載ヲ要セス
 一 官沒地拂下ノ部ニ記載シタルモノハ本表ヘ記載ヲ要セス

號 二 第

合計		土地貸渡 (明治 年 第何季)		合計		同 地方税經濟ニ屬スル分		合計		無代下渡ノ部 普通官有地ニ屬スル分		同 地方税經濟ニ屬スル分					
地名	地目	使用日期限	段別(坪)	借地箇年	貸渡月日	借地者氏名	無代下渡月日	事	山	無代下渡ヲ受タル氏名	地名	舊地種目	新地種目	段別(坪)	無代下渡月日	事	山
合計											合計						
同 地方税經濟ニ屬スル分																	

廳 名

一陸海軍在營卒ノ欄ニハ陸海軍ノ徵兵又ハ志願兵トナリテ現ニ在營在艦スル者ヲ記入スヘシ
 但歸休兵ハ算入スヘカラス
 一逃亡失踪ノ欄ニハ數前年ヨリ本年十二月三十一日迄ニ逃亡失踪シタル者ノ現數ヲ記入スヘシ
 一管外ヨリ入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡區役所管内ニ來テ住スル者又管内ヨリ入寄留ノ欄
 ニハ一府縣内ノ他郡區役所管内ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ
 一再掲市街ハ前表ニ掲ケタル市街ヲ云但此市街出入ノ調査ハ他府縣他郡區ノ出入寄留ヲ記載
 スルハ勿論同郡内ト雖モ其市街ノ域外ニ出テ住スル者ハ管内出入寄留トナシ市街ノ域外ヨリ
 來テ住スル者ハ管内入寄留トナシテ記入スヘシ

本籍人別表 (明治十九年十二月三十一日現在)

報年	族籍		戸主		家		族		兒		合		職名
	合	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
明治十九年生													
同十八年生													
同十七年生													

一棄兒ハ人ノ發子又トナラサル者ノミヲ掲クヘシ

本籍生年別人口表 (明治十九年十二月三十一日現在)

報年	生年		職名
	男	女	
明治十九年生			
同十八年生			
同十七年生			

報年

報年	生年		職名
	男	女	
同十六年生			
同十五年生			
同十四年生			
同十三年生			
同十二年生			
同十一年生			
同十年生			
同九年生			
同八年生			
同七年生			
同六年生			
同五年生			
同四年生			
同三年生			
同二年生			
同元年生			
元治元年生			
生年不詳			
合計			

一本表ハ北海道廳府縣本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以上年次ヲ逐
 日明治慶應元治文久万延安政嘉永弘化天保文政文化享和寬政天明安永明和ニ溯リ年號何年
 生ト列記シ其生レタル年ニ從ヒ配偶ノ有無ヲ類別記入スヘシ例ヘハ明治十九年生ノ下欄ニ
 ハ同年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸籍編製以前

逃亡失踪ノ其生年詳ナラサル者アルトキハ生年不詳ノ欄ニ記入スヘシ
 一千島佐渡淡路隠岐壹岐對馬大島(鹿兒島縣)小笠原島及伊豆七島ハ北海道廳府縣ノ總數表ニ掲ケ
 マルノ外尙ホ本表ニ依リ各一表ヲ製スヘシ

結婚數	報 年												離婚數	
	號 五 第													
	月次	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十		
合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私
本籍出生死亡及婚姻表 (明治 年)														
廳 名														
死 亡														
合 計														

一本表ハ北海道廳府縣本籍人ノ出生死亡及婚姻ノ總數ヲ記入スヘシ
 一嬰兒ハ生産私生ノ欄ニ記入スヘシ但生月ノ詳ナラサル者ハ推測ニ從テ區別スヘシ
 一死産ハ妊娠後四箇月以上ニシテ死胎分娩シタル者ヲ記入スヘシ
 一出生死亡ハ届出ノ月ニ拘ラス其現ニ出生死亡シタル月ニ記入スヘシ
 一結婚離婚ハ一年中ノ總數ヲ記入スヘシ
 一結婚ハ婦又ハ婿ヲ迎ヘタル方離婚ハ之ヲ出シタル方ニ就テ記入スヘシ

報 年	號 六 第											
	市 街 及 島 嶼 現 住 人 出 生 死 亡 表 (明 治 年)											
	市街名	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
合計	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私
	生	産	生	産	生	産	生	産	生	産	生	産
死 亡												
合 計												

一本表市街ハ區ノ名稱ノ有無ニ拘ラス現住人口二万以上ノ地ヲ云フ例ハ東京府ノ東京
(十五區)大阪府ノ大阪(四區)愛知縣ノ名古屋石川縣ノ金澤ニ於ケルカ如シ又島嶼ハ千島佐渡
 淡路隠岐壹岐對馬大島(鹿兒島縣)小笠原島伊豆七島ヲ云フ
 一本表ハ本籍人ノ其市街又ハ島嶼ヨリ他ニ出テ住シテ出生死亡シタル者ヲ除キ他ヨリ其市街
 又ハ島嶼ニ來リ住シテ出生死亡シタル者ヲ加ヘテ調査スヘシ
 一死産及嬰兒ヲ記入スルニハ前表ノ說明ニ據ル

報 年 號 七 第		就 籍		除 籍		類 別		應 名
就 籍	無 籍 者	外 國 日 入 籍 者	合 計	外 國 日 入 籍 者	重 籍 者	明 治 十 八 年 以 前 死 亡 失 踪 者	明 治 十 八 年 中 同 十 七 年 中 同 十 六 年 中 同 十 五 年 中 同 十 四 年 以 前	
								他 府 縣 日 入 籍 者
逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	逃 亡 失 踪	女
								合 計

一出生届洩者ノ五欄ハ明治十九年ノ調査ニ於テハ十八年ヨリ十四年マテヲ記シ二十年ノ調査ニ於テハ十九年ヨリ十五年マテヲ記スルカ如ク毎年繰上クヘシ

一明治十四年以前ノ欄ニハ明治五年戶籍編製ヨリ十四年マテニ出生シテ届洩レタル者ヲ記入

報 年 號 八 第		耕 作 及 捕 魚 採 藻 業 戶 數 表 (明治 年 十 二 月 三 十 一 日 現 在)		廳 名	
報 年	號 八 第	耕 作			
		合 計	郡 區 名	自 作	小 作
專 業	兼 業			自 作	小 作
		專 業	兼 業	自 作	小 作
		捕 魚 採 藻 業	兼 業	自 作	小 作
		合 計	合 計	自 作	小 作
		專 業	兼 業	自 作	小 作
		兼 業	自 作	小 作	合 計
		自 作	小 作	合 計	
		小 作	合 計		

一無籍者ノ欄ニハ明治五年戶籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至テ初メテ籍ニ就キタル者ヲ記入ス可シ

一外國ヨリ入籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入スヘシ

一重籍者ノ欄ニハ一人ニシテ兩所ニ本籍ヲ有スルニヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入スヘシ

一外國へ送籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入スヘシ

一逃亡失踪ノ欄ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ逃亡失踪シタル者ヲ記入スヘシ

一本表ハ明治十九年ヲ以テ第一回トシ爾後六年目毎ニ十二月三十一日ノ現狀ヲ調査スル者トス

一本表ハ華族士族平民タルニ拘ラヌ十二月三十一日ニ現ニ耕作業又ハ捕魚採藻業ニ従事スル

一現在人員ハ毎年十二月三十一日ノ現在數ヲ登記スヘシ
一救助米及ヒ同上代價ノ欄ニハ本年中支給ノ金額ト之レニ充タル米額トヲ記載スヘシ

報 年		號 二十	
遺	理 葬 費	合 計	
		公 費	私 費
金	計	本籍前ナル者	本籍前ナル者
		本籍詳ナラサル者	本籍詳ナラサル者
合 計		本籍前ナル者	本籍詳ナラサル者
合 計		本籍詳ナラサル者	本籍詳ナラサル者

一行旅死亡人取扱規則第二條後段ニ依リ支辦シタルモノハ其人員費金トモ本籍地方ノ表ニ記載ス可シ

一規則第三條本籍氏名詳ナラサルモノノ事柄ハ公告後九十日經過ノ上ニテ登記スヘシ
一規則第五條ニ依リ官沒シタルモノハ遺金ノ欄ニ記入ス可シ

報 年		號 三十	
合 計	私 費	費 途	
		官 費	公 費
計	費	前年末ノ現	本年末ノ現
		入	出
計	費	養育米支給	養育米支給
		他人員	他人員
計	費	石 高	石 高
		石 代金	石 代金

養育並養育費 (明治 年)

廳 名

一出入ノ目ニハ調査期限内ニ他管ヨリ轉入又ハ他管へ轉出若クハ死亡ニ係ルモノヲ登記ス可シ
一表中官費トハ國庫ヨリ養育料支出スルモノノ公費トハ地方稅區町村費ヲ以テ官費ヲ補助スルモノヲ云フ

報 年		號 八十	
族 籍	府縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル者 (明治 年十二月三十一日現在) 廳 名	地 租	
		五圓以上ヲ納ムル者	十圓以上ヲ納ムル者
合 計	計	有スル者	有スル者
		有キサル者	有キサル者
區	計	有スル者	有スル者
		有キサル者	有キサル者
郡	計	有スル者	有スル者
		有キサル者	有キサル者
合 計	計	有スル者	有スル者
		有キサル者	有キサル者
族	議 員	有スル者	有スル者
		有キサル者	有キサル者
合 計	計	有スル者	有スル者
		有キサル者	有キサル者

一選舉權ヲ有セサル者トハ府縣會議規則第十四條並同條ノ各款ニ被選舉權ヲ有セサル者トハ同規則第十三條並同條ノ但書ニ觸ルノ者ヲ云フ

報 年		號六十二第	
年	號七十二第	自殺者ノ所爲 (明治 年)	因 由
			例ハハ 前非ヲ悔テ 親族ノ不和 ニヨリ 活計ノ困難 ニヨリ 痴情ニヨリ 精神ノ錯亂 ニヨリ 何々ニヨリ
合 計		應 名	十六年未滿 十六年以上 二十年以上 三十年以上 四十以上 五十以上 五十以上 合 計
所 爲	例ハハ 入水シテ 刀劍ヲ用テ	男	男 女
男		女	男 女
女		合 計	男 女
合 計		應 名	男 女

一 自殺ノ因由ハ成ヘク詳カニスルヲ要ス故ニ精神錯亂セシ者ノ如キモ其原因ヲ推知シ得タルトキハ錯亂或ハ發狂等ト掲ケヌシテ其推究セシ事柄ヲ記載スベシ

報 年		號八十二第	
年	號七十二第	自殺者ノ所爲 (明治 年)	因 由
			例ハハ 押入シ盜賊ニ 途上ニテ盜賊ニ 驚散ヲ捕ヘントシテ 捕ヲ拒ミシニヨリ 暴行人ニ 怨恨ニヨリ 痴情ニヨリ 過失ニテ 何々ニヨリ
合 計		應 名	十六年未滿 十六年以上 二十年以上 三十年以上 四十以上 五十以上 五十以上 合 計
所 爲	例ハハ 銃器ヲ用テ 種々ノ刃物ヲ用テ 毒物ヲ服シテ 何々ヲ用テ	男	男 女
男		女	男 女
女		合 計	男 女
合 計		應 名	男 女

報 年		號九十二第		賭博犯ノ件數及人員 (明治 年)		應 名	
未決	本年間ノ 死逃放處 七七免罰	合 計	前年未ノ殘數 本年ノ數	件 數	男 人	女	合 計
賭博犯處罰人ノ懲罰及過料 (明治 年)				賭博犯處分規則第一條後 項ニ相當セン者及博徒ノ 招結ニ應セン者			
懲 罰 過 料	一 月 以 上 五 十 圓 以 上	一 年 以 上 五 十 圓 以 上	二 年 以 上 五 十 圓 以 上	三 年 以 上 五 十 圓 以 上	五 年 以 上 五 十 圓 以 上	七 年 以 上 五 十 圓 以 上	合 計
男							
女							
合 計							

報 年		號一十三第		賭博犯處罰人ノ犯數及年齡 (明治 年)		應 名	
合 計	二十年未滿	二十年以上三十年未滿	三十年以上四十年未滿	四十年以上五十年未滿	五十年以上六十年未滿	六十年以上	合 計
就捕犯罪人員 (明治 年)				賭博犯處罰人ノ犯數及年齡 (明治 年)			
罪 狀	官 署 吏 人 民 協 力 民	現 行 犯	准 現 行 犯	非 現 行 犯	計	自 首 合 計	
男							
女							
合 計							
內 部 合 計				內 部 合 計			
過料不納ニシテ懲罰ニシテ換ヘシ者	一 月 以 上 一 年 以 上	一 月 未 滿 六 月 以 上	一 年 以 上 六 月 以 上	一 年 以 上 六 月 以 上	一 年 以 上 六 月 以 上	一 年 以 上 六 月 以 上	合 計
男							
女							
合 計							

報 年		刑 名	
本年	前年	刑 名	名
満期放免者 特赦ヲ得シ者 假出獄者 免出獄者 懲罰假免者 同減免者 收賂放免者 刑ノ出 他(押送 他府縣) 者 其他) 逃走者 死亡者 計 本年末日ノ現在 在監延人員 罪引延人員		無期徒刑 有期徒刑 無期徒刑 有期徒刑 重懲役 輕懲役	遷徙悔悟ノ懲効アル者 初犯 再犯以上 合計 遷徙悔悟ノ懲効ナキ者 初犯 再犯以上 合計
		刑 名	名

號三十四第

報 年		刑 名	
本年	前年	刑 名	名
満期放免者 特赦ヲ得シ者 假出獄者 免出獄者 懲罰假免者 同減免者 收賂放免者 刑ノ出 他(押送 他府縣) 者 其他) 逃走者 死亡者 計 本年末日ノ現在 在監延人員 罪引延人員		無期徒刑 有期徒刑 無期徒刑 有期徒刑 重懲役 輕懲役	遷徙悔悟ノ懲効アル者 初犯 再犯以上 合計 遷徙悔悟ノ懲効ナキ者 初犯 再犯以上 合計
		刑 名	名

號四十四第

一本表及次表ノ關係ハ滿期特赦及假出獄免幽閉ニ由テ出監スル者ノミニ就テ登記ス可シ

類 別		前年末日ノ現員		本年間ノ入		本年間ノ出		本年末日ノ現員		在場延人員		捕縛延人員	
		計	再入者	計	再入者	計	再入者	計	再入者	計	再入者	計	再入者
類 別	幼 者												
	不 論 罪												
類 別	捕 縛 者												
	不 論 罪												
類 別	情 願												
	不 論 罪												
類 別	合 計												
	再 入 者												

本年間ノ出
 續期放免者
 離業者
 車故アリテ出ル者
 逃走者
 死亡者
 計

本年末日ノ現員
 在場延人員
 捕縛延人員

號七十四第

報 年

號六十四第

年 齡	類 別	新入懲治者ノ入場度數及年齡等ノ關係 (明治 年) 廳 名	
		初 入	再 入
十二歳未満	男		
	女		
十二歳以上	男		
	女		
十六歳未満	男		
	女		
十六歳以上	男		
	女		
合 計			

報 年		報 年		報 年		報 年		報 年		報 年		報 年	
		合 計		合 計		合 計		合 計		合 計		合 計	
十六歳以上	父母ノ打無												
	父母存生												
二十歳以上	父及ハ母ノミ												
	存生												
二十歳以上	父母共ニ死亡												
	遊兒												
合 計	生 育												
	實父母ノ手ニテ												
合 計	養父母又ハ繼												
	父母ノ手ニテ												
合 計	親屬ノ手ニテ												
	他人ノ手ニテ												
合 計	教育所等ニテ												
	其 他												
合 計	習進アル者												
	習進ナキ者												
合 計	教育ノ度												
	文字ノ讀ミ也												
合 計	中ニ爲リ得ル者												
	全無學ノ者												

要提		町數		村數	郡名	風水	風日		海岸	海月	派川	雜地		宅地	年季
		何箇町	何箇村				何々	何々				何々	何々		
損耗代價	船隻失沈没	西	日	延	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇

一 損耗代價ハ現時賣買ノ價格ヲ記入ス可シ
 一 道路堤防等ノ如キハ毀損ノ箇所再築ノ費金概算ヲ以テ登記ス可シ
 一 員數ノ欄ニ建物ハ(軒)段別ハ(町)數類ハ(石)金員ハ(圓)延長ハ(間)ヲ一位ニ定メ船舶ハ艘數ヲ掲ク可シ
 一 提要ノ欄ニハ水害及風害ノ景況ヲ略記ス可シ

報 年		初種		再種		三種		區 別	應 名
善	感	善	感	善	感	善	感		
滿一年	滿一年以上	滿二年	滿五年	滿十年	滿十五年	以上十五年	合 計		

一種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記ス可シ
 一 疾病事故ニテ種痘セサルモノハ滿十五年以上ノモノヲ算入スヘカラス

スヘシ若シ椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ本文ノ禮式ヲ行フヘシ
 第十一條 整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シテ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ル者ノミ相當ノ禮式ヲ行
 ヒ其他ノ者ハ禮式ヲ受クヘキ人ニ注目スヘシ
 第十二條 同班警察官吏ハ互ニ敬禮ヲ行フヘシ
 第十三條 警衛消防囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スヘキ職務ニ従事スルトキハ禮式ヲ行フノ限ニ
 アラズ

○内務省令第十九號

明治四年四月四日布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正月第四號布告第八項寄留者
 届出方左ノ通相定メ來ル十二月一日ヨリ施行ス

明治十九年九月二十八日

内務大臣伯爵山縣有朋

- 第一條 出產アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ
- 第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ
- 第四條 廢戶主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事項ハ其許可ノ指令ヲ受領
 シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第五條 前數條ニ記載シタル事項ハ戶主ヨリ届出ヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上
 又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアルトキハ現在地戸長ニ
 届出且同時ニ本籍地戸長ハ屆書ヲ發送スヘシ
- 第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ
 寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同

時ニ本籍地戸長ハ屆書ヲ發送スヘシ

- 第七條 寄留地ヲ去ルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主又ハ
 其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ
- 第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戶主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
- 第九條 正當ノ理由ナクシテ前數條ニ違背シタル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ料料ニ處ス

○陸軍省令第三十七號

北海道廳 府縣 沖繩縣

來明治二十年徵兵令ニ據リ海軍水兵八百名火夫五十名徵集致候統テハ徵員配當及ヒ選定方ハ左ノ
 四項ニ據リ其他ハ陸軍徵兵事務取扱手續並ニ陸軍醫官徵兵検査規則ニ據リ取扱フヘシ

明治十九年九月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 第一項 水兵火夫徵集人員ノ配當ハ一軍管徵兵區ニ於テ人別表記職ノ職業ニ據リ第二項ニ當ル
 者ト認ムル總人員ヲ率トシ之ヲ府縣ニ配當スヘシ
- 第二項 水兵火夫ハ徵兵事務條例第五十六條ニ掲グル項目ノ順序ニ從ヒ且水兵ハ左ノ諸目ニ相
 當ノ者ヨリ選フヘシ
- 第一 第五十六條第一項中航海學卒業ノ者
- 第二 同條第二項中船長運轉手水夫長水夫又ハ小使等ノ職ニ従事セシ者
- 第三 同條第五項第六項ニ相當ノ者
- 第三項 火夫ハ第二項ニ準シ左ノ諸目ニ相當スル者ヨリ選フヘシ
- 第一 第五十六條第一項中機關學卒業ノ者
- 第二 同條第二項中機關手火夫長火夫又ハ小使等ノ職ニ従事セシ者

第三 同條第三項相當ノ者

第四項 水兵火夫ハ身幹五尺以上ニシテ體格甲種ノ者ヨリ採用スヘシ

北海道廳 府縣神戶縣 除ク

○陸軍省令第百三十八號 東京府管下伊豆七島ヲ同府麹町區駐在所ノ管轄トス

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年九月二十八日

○陸軍省令乙第百三十二號 (本文ハ甲第百二十八號ニ同シ)

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年九月二十八日

海軍 一般

○海軍省令第百十號 橫須賀鎮守府所轄警備艦自今常備小艦隊ニ編入セラル此旨心得ヘシ

海軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年九月二十九日

○大藏省令第二十九號 明治十七年五月三十一日以前ニ係ル印紙類賣捌人中特ニ印紙類賣下代金延納ヲ許可セシ者及身代

限ノ處分ヲ受ケ賣下代金不納ノ者爾後右代金ヲ納付スル分ハ別ニ賣捌手数料ヲ給セス納付金ノ内ヨリ該手数料相當ノ金額ヲ減スヘシ

大藏大臣伯爵松方正義

明治十九年九月三十日

○陸軍省令乙第百三十三號 明治十一年違乙第百三十三號違室丙銃射的演習規則自今廢止ス

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年九月三十日

○陸軍省令乙第百三十四號 九月廿 陸軍軍吏部下士補充規則別冊之通定

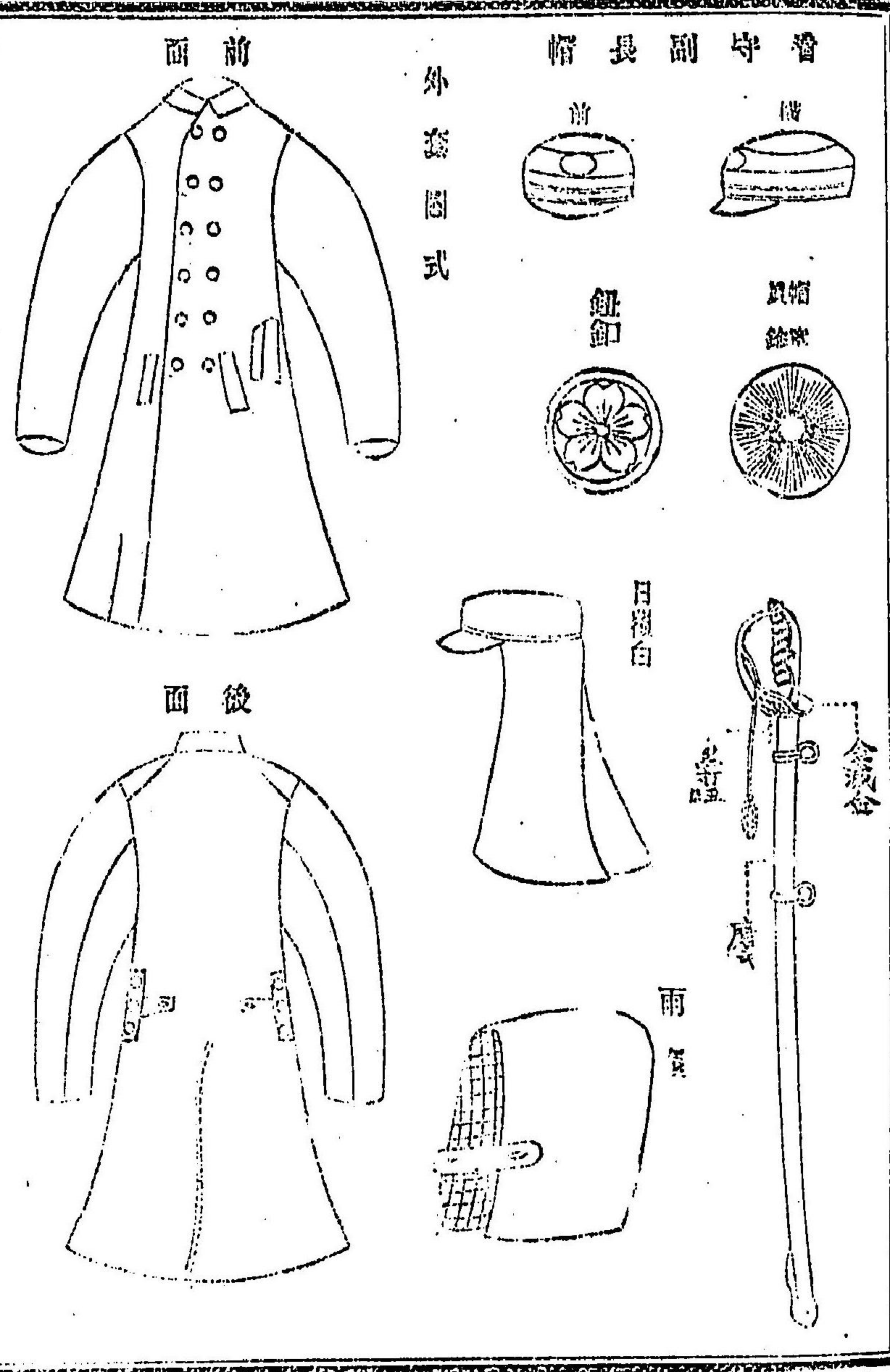
陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年九月三十日 (別冊)

陸軍軍吏部下士補充規則

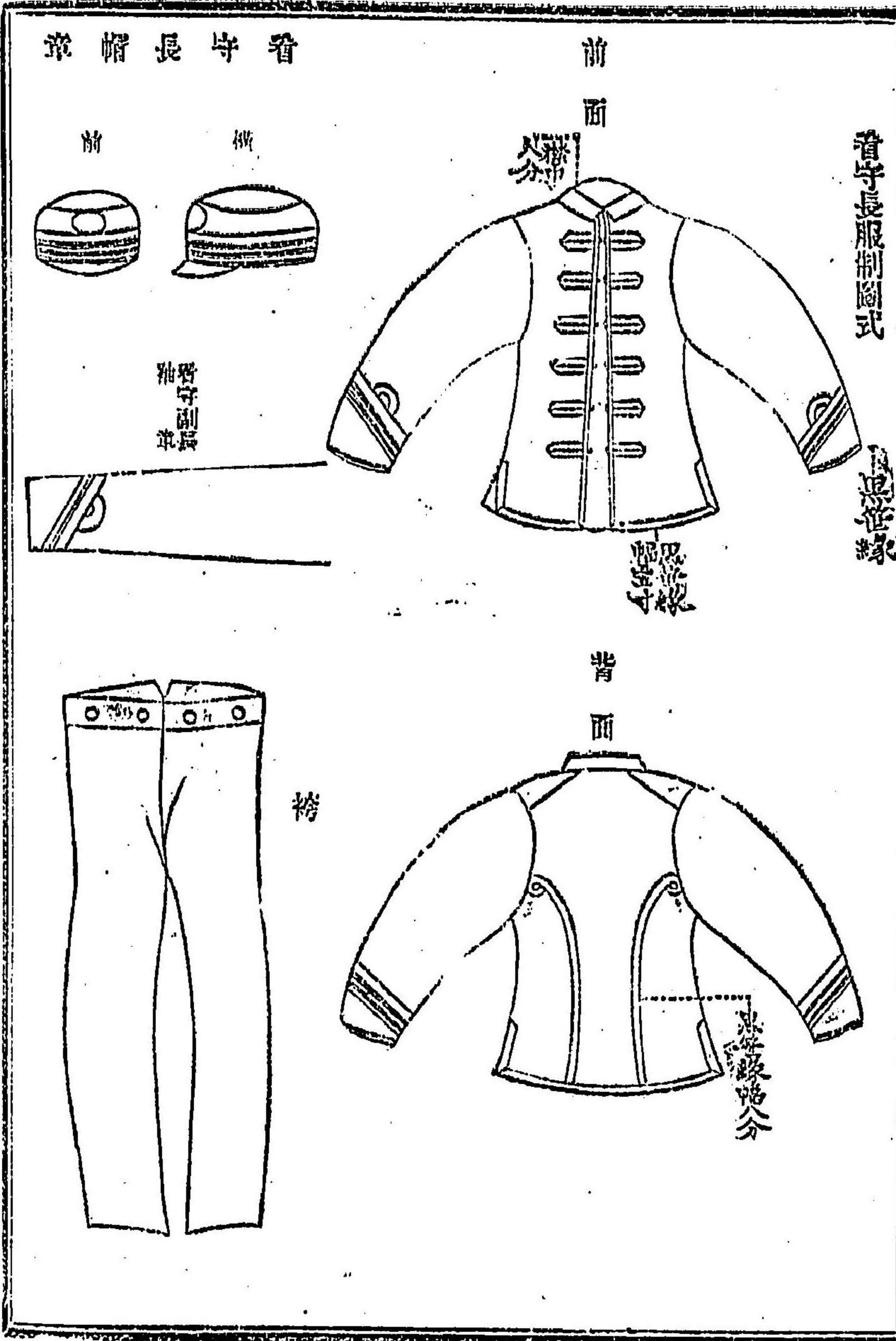
- 第一條 軍吏部下士ノ補充ハ各兵上等兵ノ内軍吏部下士出身志願ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 近衛鎮臺各隊ニ於テ毎年十月本年任用ノ上等兵中ニ就キ志願者ヲ調査シ性質直實行狀方正勤務勉勵ナル者步兵ニ在テハ一大隊ニ二名其他ニ在テハ大隊又ハ中隊ニ一名宛ヲ撰ミ之ヲ該隊計官ニ附屬セシメ會計經理ノ事務ヲ見學修習セシム
- 第三條 見學上等兵ハ尙本隊ノ定員中ニ在リテ人事及ヒ諸給與等總テ其管理ヲ受ケルモノトス
- 第四條 計官ハ見學上等兵ヲシテ會計經理ノ諸定則ヲ修習セシメ且ツ附屬書記ノ事務ヲ補助セシメ常ニ之ヲ監視シテ其適否ヲ考察スヘシ
- 第五條 計官ハ毎年三月ニ於テ見學上等兵ノ適否ヲ考定シ適任ト認ムル者ハ考科表ヲ作り該隊長ノ認可ヲ得テ當該監督部ヘ具申シ不適任ト認ムル者ハ該隊長ヘ具申シテ原隊ニ復歸セシムヘシ
- 第六條 近衛鎮臺監督部長ハ各隊計官ヨリ考科表ヲ受領スレハ部中ニ於テ検査委員ヲ設ケ親ヲ首坐ト爲リテ検査ヲ行フ
- 第七條 各監督部長ハ検査合格者ノ内優等ノ者若干名四年四月ヨリ翌年三月迄ノ内ヲ撰ミ近衛都督鎮臺司令官ノ認可ヲ得テ監督部及ヒ所轄外官ニ派遣シ其事務ヲ修習セシメ其他ノ者ハ尙本隊計官ニ附屬シテ見學セシメ不合格ノ者ハ原隊ニ復歸セシム
- 第八條 各監督部長ハ監督部等ニテ事務ヲ修習スル所ノ上等兵ヲ監視シ其職務ニ適任ナルヲ確

明治十九年十月 留省 内務省第二十號



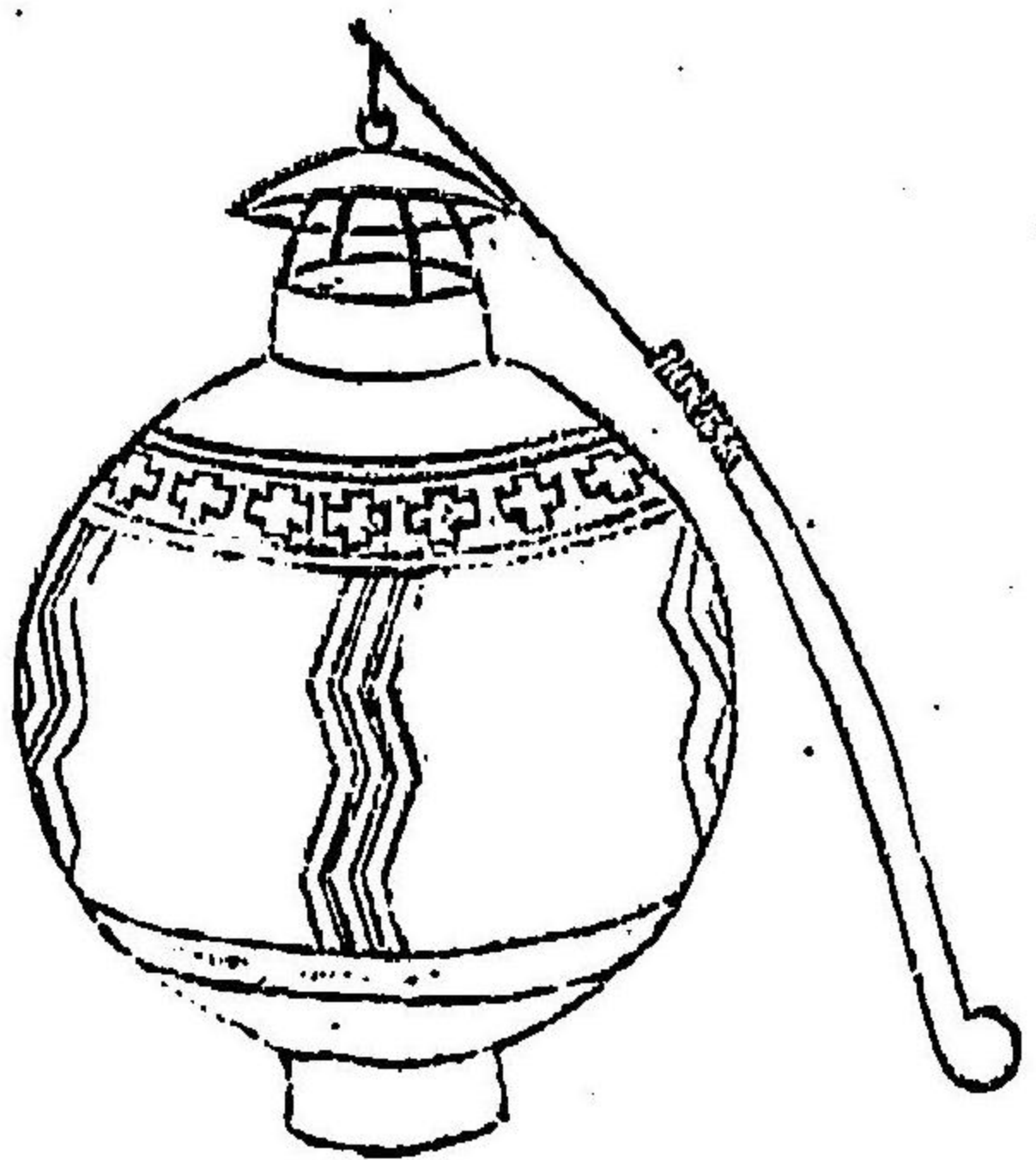
大正一三

明治十九年十月 留省 内務省第二十號

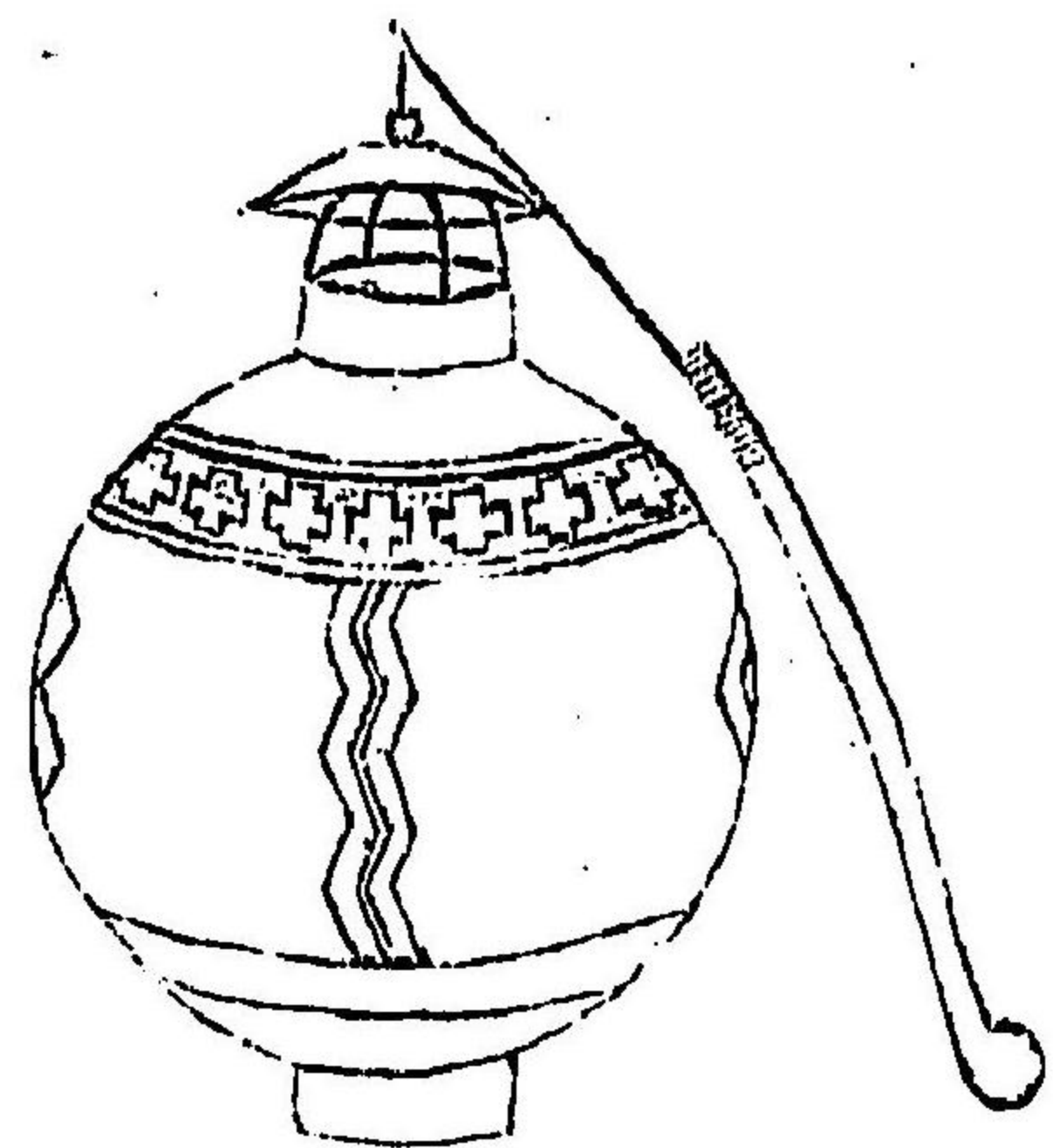


七百十二

看守長提燈



看守副長提燈



○陸軍省令第三百二十五號

陸海軍喇叭譜同目次同區分表及ヒ同喇叭吹奏歌中へ別紙之追加ス (別紙略ス)

但明治十八年十二月二十八日達乙第百七十四號達ヲ廢ス

明治十九年十月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○內務省令第二十一號

戶長身分取扱方ハ勅令第三十六號判任官官等三等以下ニ准シ其俸給ハ道廳長官府縣知事適宜之ヲ定ムヘシ

明治十九年十月六日

內務大臣伯爵山縣有朋

○海軍省令第一百十二號

明治十七年六月乙第七號丙第百三號達海軍下士服役規則中第一條第三項ヲ廢ス

明治十九年十月八日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第一百十三號

海軍士官學術検査規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍一 般

明治十九年十月八日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍士官學術検査規則

第一條 毎年定期檢閱ノ時期ニ先チ士官ノ實役停年最下期限ヲ超ヘタル者並ニ奏任五等ノ大尉及同等官ニシテ實役停年最下期限ノ半數ヲ超ヘタル者ノ學術ヲ検査シ以テ拔擢進級セシムヘキ者ヲ選擇ス

第二條 學術検査ノ規格ハ毎年之ヲ定メ検査實施ノ期ヨリ六箇月前ニ布達スルヲ例トス

第三條 士官ノ學術検査ハ委員ヲ編制シテ之ヲ行ハシム

東京諸官廳ニ於テハ其司令長官司官委員長ト爲リ其部下ノ將校准將校ヲ以テ委員ヲ編制ス可シ

東京諸官廳ニ於ケル士官ノ學術検査ハ東京諸官廳ニ在ル將官一名ヲ以テ委員長トシシ同上ノ將校准將校ニ就キ委員ヲ命ス

東京外諸官廳ニ於ケル士官ノ學術検査ハ其地方在勤ノ將官一名ヲ以テ委員長トシ同上ノ將校准將校ニ就キ委員ヲ命ス

第四條 委員ノ編制ハ左ノ如シ

將校ノ検査委員

大佐 一人
少佐 三人

機務部士官ノ検査委員
機關大監大技監 各一人
機關少監少技監 各三人

但機關監ハ機關士技監ハ技士ノ検査ヲ掌ル

軍醫部士官ノ検査委員
軍醫大監 一人
軍醫少監 三人
一 藥劑官ノ検査ハ
一 藥劑監トス

主計部士官ノ検査委員
主計大監 一人
主計少監 三人

第五條 東京及東京外諸官廳ニ在ル士官ノ學術検査ハ其官廳所在ノ地ニ於テ之ヲ行ヒ鎮守府士官ノ學術検査ハ其鎮守府所在ノ地ニ於テ之ヲ行ヒ艦隊士官ノ學術検査ハ司令長官司令官便宜ノ地ニ於テ之ヲ行フ

第六條 外國若クハ遠隔ノ地ニ派遣セル艦船ニシテ委員ニ於テ検査ヲ行フ能ハサルトキハ委員長ヨリ問題ヲ送付シ検査ノ方法熟數ノ附與法ヲ示シ先任ノ艦船長ヲシテ委員長トナリ臨時委員ヲ選ンテ之ヲ施行セシム

第七條 一箇年以上試用セル少尉候補生其他候補生ノ學術検査モ前諸條ノ例ニ依ル

○海軍省令第百十四號

海軍一 般

少尉候補生少機關士候補生少技士候補生少軍醫候補生少主計候補生ノ手當食料支給定規ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年十月八日

海軍大臣伯爵大山 巖

候補生手當食料支給定規

第一條 候補生ヲ命シタル者ニハ其當日ヨリ任官シ若クハ候補生ヲ免シタル當日マテ左ノ區別ニ依リ手當金ヲ給ス

航行艦ニ在テハ	一日	一圓
裝留艦ニ在テハ	一日	八拾五錢
陸上ニ在テハ	一日	七拾五錢

但少技士候補生ハ其技能ニ應シ八拾五錢又ハ九拾五錢ヲ給スルモノトス

第二條 候補生遠洋航海ニ從事スルトキハ前條手當ノ外ニ省令第六十四號遠洋航海手當日額表中准士官ト同額ノ手當ヲ増給ス

第三條 候補生乘艦中ハ省令第六十三號海軍軍人軍屬食料支給定規ニ依リ食料日當ヲ給ス

○陸軍省令甲第三十九號

陸軍召集條例別冊ノ適定

但施行期日ハ追テ違ヌヘシ

明治十九年十月九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍召集條例目次

第一章 總則

- 第二章 充員召集
- 第三章 後備軍召集
- 第四章 近衛充員召集
- 第五章 近衛後備軍召集
- 第六章 演習召集
- 第七章 點呼召集
- 第八章 召集準備

陸軍召集條例

第一章 總則

- 第一條 陸軍召集條例ハ平戰兩時ノ緩急ニ應シ歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員ヲ召集スルノ手續ヲ示スモノナリ
- 第二條 凡ソ召集ハ之ヲ別チテ左ノ六種トス
 - 一 充員召集
 - 二 後備軍召集
 - 三 近衛充員召集
 - 四 近衛後備軍召集
 - 五 演習召集
 - 六 點呼召集
- 第三條 充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第四條 充員召集ヲ別チテ二種トス戰時若クハ事變ニ際シ國隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノヲ第一充員召集トシ戰時若クハ事變ニ際スルモ其方面未タ戰爭ヲ期セス單ニ警戒ニ止マリ又ハ時機分遣駐屯等ノ爲メ國隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成セサルモノヲ第二充員召集トス

第五條 凡ソ充員召集ニ當リ歩兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ各隊所在地ニ其他ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ鎮臺下ニ豫備役驅員兵員ハ本隊所在地ニ召集スルモノトス然レトモ左ニ掲クルモノハ本營各部及ヒ各隊所在地ニ召集スヘシ

- 一 本營各部ノ行李及ヒ縱列等ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員
- 二 各隊ノ行李ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員
- 三 本營各部及ヒ各隊ニ要スル歸休兵並ニ豫備役ノ看護卒及ヒ諸職工

第六條 後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ後備軍驅員兵員ヲ召集ス但驅員ノ召集ハ兵員ノ召集ニ先ツモノトス

第七條 凡ソ後備軍召集ニ當リ歩兵科ノ後備軍驅員兵員ハ鎮臺下若クハ營所所在地ニ其他ノ後備軍驅員兵員ハ總テ鎮臺下ニ召集スルモノトス然レトモ輜重兵科ノ後備軍驅員兵員ハ時宜ニ由リ營所所在地又ハ其他ノ地ニ召集スルコトアルヘシ

第八條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第九條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ國隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノトス

第十條 凡ソ近衛充員召集ニ當リ近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ハ總テ東京若クハ臨時指定ノ地

ニ召集スルモノトス但一旦軍管内近衛兵集地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

第十一條 東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ一部ノ近衛充員ヲ行フトキハ諸隊本屬ノ如何ヲ問ハス該地最寄軍管ヨリ召集シテ之ニ充ツルモノトス但本條一部ノ充員ヲ行フトキハ補充隊ヲ他ノ地ニ於テ編成スルコトアルヘシ

第十二條 近衛後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ近衛充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ近衛後備軍驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第十三條 凡ソ近衛後備軍召集ニ當リ近衛後備軍驅員兵員ハ總テ東京ニ召集スルモノトス但一旦軍管内近衛兵集地ニ召集シ同地ヨリ東京ニ引率セシム

第十四條 演習召集ハ臨時若クハ定時ニ於テ歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第十五條 臨時演習召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ行フヘキ充員召集又ハ後備軍召集ノ手續ヲ演習スルモノニシテ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行ヒ定時演習召集ハ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行フモノトス

第十六條 臨時演習召集ハ第二章第三章第四章及ヒ第五章ヲ適用スルモノトス

第十七條 定時演習召集ハ之ヲ別チテ豫備役驅員兵員演習召集後備軍演習召集ノ二種トス

第十八條 豫備役驅員兵員定時演習召集ハ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ヲ召集シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス但豫備役兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第十九條 近衛豫備役驅員兵員定時演習召集ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス但一旦軍管内近衛兵集地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

近衛兵員ハ時宜ニ由リ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フコトアルヘシ然ルトキハ其召集法歩砲兵ニ在テハ各隊充足要員ノ九分一騎工兵ニ在テハ同六分一ノ比ヲ以テ之ヲ召集スヘシ其他ノ扱ハ鎮臺兵員ト異ナルコトナシ但鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フトキハ近衛豫備役驅員ハ召集セサルモノトス

第二十條 後備軍定時演習召集ハ後備軍驅員兵員ヲ召集シ聯隊若クハ大隊常備軍服ニ編成シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス但兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第二十一條 近衛後備軍定時演習召集ハ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺後備軍ト合シ之ヲ行フモノトス其方法ハ第十九條第二項本文ノ例ニ準ス

第二十二條 點呼召集ハ近衛鎮臺ノ豫備役後備役兵員實査ノ爲メ時期ヲ定メ之ヲ召集スルモノトス

第二十三條 點呼召集ハ郡區駐在官其管轄郡區ヲ巡回シ兵員ノ概子一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十四條 凡ソ召集ハ定時演習及ヒ點呼召集ヲ除クノ外發令後決シテ訓示ヲ仰クヘカラス故ニ陸軍諸官廳ハ勿論地方廳ニ於テ豫メ諸官ノ擔任スヘキ細務ヲ規定シ置クヘシ

第二章 充員召集
一 第一充員召集

第二十五條 鎮臺司令官ハ第一充員召集ノ令アルトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長憲兵分隊隊長ニ在テハ分遣隊長以下憲兵本部長トアルモノ皆同シ北海道廳長官府縣知事並ニ警視總監及ヒ大審院長控訴院長檢察長始審裁判所長檢察上席ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官本條ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第一充員召集ノ令ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第二十七條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ豫備役驅員ノ召集令狀第一號式中ニ年月日ヲ記シ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ郡區長ニ送付スヘシ

第二十八條 憲兵本部長ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ憲兵ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ但憲兵部ノ設ケナキ地ハ警察官吏專ラ之ヲ擔任シ憲兵部ノ設ケアル地ノ警察官吏ハ憲兵部ノ職務ヲ補助スヘキモノトス

一 郡區駐在所郡區役所若クハ戸長役場ニ就キ召集ニ應スヘキ者ノ人名ヲ承知シ各自ノ家ニ到リ遲滞ナク發程セシヤ否ヲ調査シ若シ故ナク猶豫スルモノアルトキハ速ニ發途ヲ督促スヘシ

二 召集ニ應スヘキ驅員兵員通行ノ沿道宿驛ニ在テハ其宿泊スヘキ軍用旅舎ヲ定メ晝間ハ標旗第二號式夜間ハ標燈第三號式ヲ掲ケシムヘシ

三 河川港灣停車場等ノ要地ニハ出張シテ其通行ヲ容易ナラシムヘシ

四 其筋ノ通知ニ從ヒ失踪逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ヲ拘留シ口供ヲ作り之ヲ召集地ニ引致シ若クハ送還スヘシ

第二十九條 警視總監ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ

第三十條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ戸長ニ達シ併セテ驅員兵員ノ召集旅費ヲ下付シ又第二十七條ノ郡區駐在官ヨリ送付スル豫備役驅員ノ召集令狀ハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自ニ配達スヘシ但本條ノ旅費ハ召集令ノ際直ニ郡區署ノ金庫國庫金取扱所或

ハ同出張場又ハ現金支拂所ヨリ郡區役所ニ送付スルヲ以テ領收證ト引換現金ヲ受領スヘシ

第三十一條 戸長ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員ノ召集令狀中ニ年月日ヲ記シ豫定ノ脚夫ヲ以テ各自ニ配達スヘシ

第三十二條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以內ニ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日行程十里十里詰ハ最下段ヲ示ス以下十里詰トアルモノ皆同シヲ以テ旅行シ又汽車汽船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ハラヌ之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第三十三條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充足要員第三號式ヲ受領スヘシ

第三十四條 府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後充員名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ

第三十五條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アルトキハ戰時名簿ヲ添ヘ之ヲ補充隊ニ移スヘシ

第三十六條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付スヘシ

第三十七條 豫備役驅員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ共人名ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ申告スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ共人名ヲ聯隊長ニ申告スヘシ

第三十八條 歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヨリ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢シ歸休兵ハ直ニ本隊ニ歸ラシメ其他ノ兵員ハ充

足要員票ニ照シ本營各部及ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但分營所在地ニ參

第三十九條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌

ヲ付シ之ヲ格納スヘシ但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ武庫主管及ヒ各隊ヨリ受領シ置クモ

第四十條 鎮守營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ召集ニ應シメル者ノ戰時名簿ヲ

取纏メ之ヲ其所屬ノ本營各部及ヒ各隊ニ送付スヘシ

第四十一條 本營各部及ヒ各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體検査ヲ爲サシメ現時

戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ鎮

守又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但本條ノ兵役ニ堪ヘサル

者ハ鎮守營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ヨリ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第四十二條 召集ニ應スヘキ豫備役職員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族

ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官 以下陸軍醫官不在ノ地ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ準士

官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ分營所在地ノ府縣駐在官ニ送付スヘキモ同シテ鎮守又ハ營所後備軍司

令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十三條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キ

トキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部

部ノ股ケナキ地ハ最寄警察署若クハ巡ノ確認ヲ受ケ戶長ノ與書証印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘ

シ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戶長ニ返付スヘシ

第四十四條 召集ニ應スヘキ豫備役職員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四十二條ノ手

續ニ據リ准士官以上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場

ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官若クハ分營

所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第四十五條 召集ニ應スヘキ歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第四

十三條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ

召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届

出ヘシ

第四十六條 召集ノ期ニ後ルノ者アルトキハ鎮守營所後備軍司令官若クハ府縣駐在官ハ其事實ヲ

取纏シ懲罰ニ該ルヘキモノハ直ニ之ヲ處分シ其罰文ト共ニ本營各部若クハ各隊長ニ交付シ刑法

ニ該ルヘキモノハ陸軍治罪法ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘシ但身分ニ依リ懲罰若クハ檢察ノ處分ヲ爲

スモトヲ得サルトキ其懲罰處分ニ係ルモノハ鎮守後備軍司令官ハ鎮守司令官ニ營所後備軍司令

官ハ營所司令官ニ府縣駐在官ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ具狀シ其檢察處分ニ係ルモノハ陸

軍治罪法ニ從ヒ處分スヘシ

第四十七條 第四十二條ノ準士官以上ノ屆書ハ鎮守營所後備軍司令官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作

事由ヲ摘載シ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ又第四十三條ノ兵員ノ屆書ハ郡區駐在官之ヲ

審査シ不參人名書ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘシ

第四十九條 第一充員召集ノ發令アルトキハ左ニ掲クル官衙公署等ニ於テ速ニ警報式ヲ揭示場

式ヲ揭示場

揭示場等事務所ハ公衆ニ公示スヘシ

- 一 總長屯所同分屯所
- 一 警察署同分署巡查派出所
- 一 郡區役所
- 一 戸長役場

第五十條 第一充員召集後ノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添ヘ取扱所或ハ同出張場又

ハ現金支拂所ニ返付シ地方廳ヲ經テ鎮守監警部ニ送付スヘシ

第五十一條 第一充員ノ爲メ召集シタル歸休兵並ニ豫備後備員兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概テ

第六卷演習解散ノ例ニ準シテ行フヘシ

二 第二充員召集

第五十二條 第二充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十四條ニ至ル諸條及ヒ第三十六條ヨリ第

五十一條ニ至ル諸條ハ此諸條中補充隊ニ適用スヘシ

第三章 後備軍召集

第五十三條 後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以内ニ戸長役場ニ到リ旅費

ヲ受領シ而シテ一日行程十里計ヲ以テ旅行シ又汽車汽船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ハラヌ之ニ

依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第五十四條 府縣駐在官ハ後備後兵召集ノ發令後召集名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ

第五十五條 後備各隊長ハ後備後兵召集ノ發令後武庫主管及ヒ鎮守又ハ營所後備軍司令官ヨリ兵

器彈藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第五十六條 後備後兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮守營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ

各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢セシメ其兵員ヲ各部各隊ニ交付スヘシ

第五十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之

ヲ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ送付スヘシ但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ武庫主管ヨリ受領シ置ク

セノトス

第五十八條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族

ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在

官ヲ經テ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第五十九條 召集ニ應スヘキ後備後兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人

又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ共事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ

戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戸長ニ返付ス

ヘシ

第六十條 召集ニ應スヘキ後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十八條ノ手續

ニ據リ準士官以上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戸長役場ニ

到リ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十一條 召集ニ應スヘキ後備後兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第五十九條ノ手

續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戸長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ召集地ニ向

ケ發程シ參着ノ上ハ鎮守又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十二條 後備軍召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第三十七條第四十條第四

十一條補充隊ニ限リ及ヒ第四十六條ヨリ第五十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第四章 近衛充員召集

第六十三條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第六十四條 近衛充員召集ノ發令アルトキハ近衛ニ於テハ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員ヲ引率ノ爲メ士官下士若干名ヲ各軍管近衛兵集合地ニ出張セシムヘシ但時宜ニ由リ近衛豫備役驅員ヲ引率引率セシムルコトアルヘシ

近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ至ル驅員兵員ノ旅費金ハ近衛ニ於テ出張ノ士官下士若クハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ交付スヘシ

第六十五條 近衛豫備役驅員既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ點檢シ然ル後東京若クハ臨時指定ノ地ニ向ケ發程セシメ戰時名簿ハ之ヲ近衛副官臨時指定ノ地ニ在テハ出張ノ近衛副官ニ送附スヘシ

第六十六條 近衛歸休兵並ニ豫備役兵員既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ後備軍副官若クハ其地ノ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀及ヒ手帖ヲ點檢セシメ然ル後戰時名簿ト共ニ之ヲ出張ノ近衛士官又ハ下士若クハ引率ノ近衛豫備役驅員ニ交付スヘシ

第六十七條 近衛副官ハ近衛充員召集ノ發令後速ニ本營各部及ヒ各隊ヨリ充足要員票ヲ受領スヘシ

第六十八條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アルトキハ戰時名簿ヲ添ヘ速ニ之ヲ補充隊ニ移スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナルトキハ先ツ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第六十九條 近衛各隊長ハ近衛充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ之ヲ該地ニ輸送シ其手續ヲ爲スヘシ但補充隊編成

ノ地本隊所在地ト異ナルトキ其補充隊ニ交付スヘキ武器被服等ハ近衛副官部ニ交付シ同部ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十條 近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ參着スルトキハ近衛副官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ驅員ハ其人名ヲ都督若クハ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ點檢シ充足要員票ニ照ラシ本營各部及ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ殘餘ノ兵員アルトキハ出張ノ近衛副官部官員其旨ヲ部隊ヲ統轄スル長官ニ申告スヘシ

第七十一條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納シ又東京外ノ地ニ於テ充員ヲ行フトキハ私服ハ出張ノ近衛副官部官員ニ交付スヘシ但本營各部ニ於テハ豫メ武器被服ヲ近衛武庫主管及ヒ近衛各隊ヨリ受領シ置クモノトス

第七十二條 近衛副官ハ召集ニ應シタル者ノ戰時名簿ヲ取廻メ之ヲ其所屬ノ本營各部及ヒ各隊ニ送付スヘシ

第七十三條 本營各部及ヒ各隊ニ於テハ兵員受領ノ後醫官ヲシテ各自ノ身體檢査ヲ爲シ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ戰時名簿ヲ添ヘ補充隊ニ交付シ又全ク兵役ニ堪ヘサル者ハ同名簿ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ハ之ニ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ但補充隊編成ノ地本隊所在地ト異ナル場合ニ在テ本條ノ現時戰役ニ堪ヘサル者ハ先ツ出張ノ近衛副官部官員ニ交付シ同官員ヨリ補充隊ニ交付スヘシ

第七十四條 召集ニ應スヘキ近衛豫備役驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第七十五條 召集ニ應ヌヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應ヌ
難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵
部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直
ニ戶長ニ返付スヘシ

第七十六條 召集ニ應ヌヘキ近衛豫備役驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第七十四條
ノ手續ニ據リ準士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戶長
役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官
ニ届出ヘシ

第七十七條 召集ニ應ヌヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ
第七十五條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戶長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ
直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第七十八條 第七十六條及ヒ第七十七條ニ當ル者既ニ近衛兵集合地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後
備軍司令官ハ第六十五條及ヒ第六十六條ノ例ニ準シ取扱フヘシ但本條ノ場合ニ在テハ兵員ト雖
モ單行セシムルヲ得

第七十九條 召集ノ期ニ後ルノ者アルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ第四十六條ノ例ニ準シ之ヲ
處分スヘシ但懲罰處分ノ者ハ其罰文ヲ近衛副官ニ送付スヘシ

第八十條 第七十四條ノ準士官以上ノ届書ハ鎮臺營所後備軍司令官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り
各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ近衛副官ニ送付シ同官ハ之ヲ都督ニ差出スヘシ

第八十一條 第七十四條ノ下士ノ届書ハ府縣駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り各自姓名ノ頭ニ
事由ヲ摘載シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ヲ經テ近衛副官ニ送付シ又第七十五條兵員ノ届書ハ郡

區駐在官之ヲ審査シ不參人名書ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出スヘ
シ但兵員不參ノ人員ハ鎮臺營所後備軍司令官ヨリ近衛副官ニ通知スヘシ

第八十二條 近衛充員召集令狀ノ後郡區長ハ召集旅費計算書ニ原證書ヲ添ヘ現金アルハ金取取所或ハ同出願
場又ハ現金支拂所ニ返地方廳ヲ經テ近衛監督部ニ送付スヘシ

第八十三條 近衛充員召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條及ヒ第五十
一條ヲ適用スヘシ

第五章 近衛後備軍召集

第八十四條 近衛後備軍驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其
令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第八十五條 近衛後備各隊長ハ近衛後備役兵召集ノ發令後近衛武庫主管及ヒ同副官部ヨリ兵器彈
藥被服ヲ受領シ之ヲ各中隊ニ配當スヘシ

第八十六條 近衛後備軍驅員兵員既ニ近衛兵集合地ヨリ東京ニ參着スルトキハ近衛副官ハ各自ノ
召集令狀ヲ引揚ケ驅員ハ其人名ヲ都督ニ申告シ兵員ハ其手帖ヲ點檢シ各部各隊ニ交付スヘシ

第八十七條 各部各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給シ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之
ヲ近衛副官部ニ送付スヘシ但各部ニ於テハ豫メ武器ヲ近衛武庫主管ヨリ受領シ置クモノトス

第八十八條 召集ニ應ヌヘキ近衛後備軍驅員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應ヌ難キトキハ本人又ハ
親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ准士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣
駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第八十九條 召集ニ應ヌヘキ近衛後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應ヌ難キトキハ
本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ

受ケ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但召集令狀ハ本人又ハ親族ヨリ直ニ戸長ニ返付スヘシ

第九十條 召集ニ應ヌヘキ近衛後備軍驅員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八十八條ノ手續ニ據リ准士官以上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ府縣駐在官ニ届出テ然ル後戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十一條 召集ニ應ヌヘキ近衛後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ其旨ヲ第八十九條ノ手續ニ據リ郡區駐在官ニ届出テ然ル後戸長役場ニ到リ召集令狀並ニ旅費ヲ受領シ直ニ近衛兵集合地ニ向ケ發程シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第九十二條 近衛後備軍召集ノトキハ第二十五條ヨリ第三十一條ニ至ル諸條第四十九條第五十一條第六十四條ヨリ第六十六條ニ至ル諸條第七十二條第七十三條第七十七條第七十八條ヨリ第八十二條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

第六章 演習召集

一 豫備役驅員兵員演習召集

第九十三條 鎮臺司令官ハ演習召集ヲ行フトキハ之ヲ營所司令官鎮臺後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各團隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長北海道廳長官府縣知事並ニ警視總監ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官其取扱ヲ爲スヘシ

第九十四條 近衛豫備役驅員兵員演習召集ヲ行フトキハ近衛都督ヨリ之ヲ鎮臺司令官ニ通牒シ同官ハ第九十三條ノ例ニ準シ其取扱ヲ爲スヘシ

第九十五條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第九十三條第九十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ郡區駐在官ニ達スヘシ

第九十六條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ速ニ召集スヘキ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ノ演習令狀ヲ中ニ演習ノ日數參集ノ期日及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第九十七條 警視總監ハ第九十三條第九十四條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達シ又北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ但北海道廳長官府縣知事ハ本條ノ達ト共ニ召集旅費ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第九十八條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ之ヲ戸長ニ達シ併シテ驅員兵員ノ召集旅費並ニ兵員ノ令狀ヲ送付シ又驅員ノ令狀ハ之ヲ各自ニ配達スヘシ

第九十九條 戸長ハ演習召集ノ達ニ從ヒ召集ニ應ヌヘキ歸休兵豫備役兵員ノ演習令狀ヲ各自ニ配達スヘシ

第一百條 歸休兵並ニ豫備役驅員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スルトキハ戸長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル參集期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ但近衛歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集ノトキハ近衛兵集合地ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第一一一條 鎮臺營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ハ驅員兵員召集地ニ參着前召集ニ應ヌヘキ歸休兵並ニ豫備役驅員兵員ノ召集人名書ヲ作り之ヲ各部各隊長ニ交付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルトキハ近衛副官ハ豫メ召集要員ヲ算定シ其人員ヲ各鎮臺後備軍司令官ニ通知シ同官ヨリ其人名書ノ送致ヲ受ケ驅員ノ人名書ト共ニ之ヲ近衛各部各隊長ニ交付スヘシ

第百十二條 各部各隊長ハ驅員兵員解散ノ後召集人名書ニ召集中ノ缺勤罰科等ヲ記シ之ヲ領受又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ヨリ其人書ヲ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ之ヲ各領受後備軍司令官ニ送付スヘシ

第百十三條 驅員兵員ノ手帖ニハ各部各隊長ニ於テ其部隊ニ編入セシ年月日缺勤罰科其他給與シタル日給又ハ歸郷ノ旅費金等總テ召集中ニ係ル事件ヲ記入スヘシ

第百十四條 驅員兵員解散ノ際疾病其他ノ事故ニテ同時解散スルコト能ハサルモノハ其人名書ニ私服ヲ添ヘ之ヲ領受又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ交付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ヨリ其人書ニ私服ヲ添ヘ近衛副官ニ交付シ同官ヨリ更ニ其人書ノミ各領受後備軍司令官ニ通知スヘシ

第百十五條 驅員兵員解散ノトキ輕重懲罰期中ノ者ニシテ監獄ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ罰文ト共ニ之ヲ領受又ハ營所後備軍司令官ニ交付シ又分營ニ在テハ其地ノ營倉ニ錮シ置キ其人書ヲ同地ノ府縣駐在官ニ通知シ滿期ノ上同官ニ交付スヘシ其禁足ニ換ヘタル者ハ本人ヲ歸郷セシノ罰文ヲ領受又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ送付スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛各部各隊長ハ本條ノ手續ニ準シ罰人又ハ罰文ヲ近衛副官ニ交付スヘシ

第百十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ前條ノ監倉ニ錮スヘキ者ハ之ヲ監獄長ニ交付シ又禁足ニ換ヘタル者ハ其罰文ヲ府縣駐在官ヲ經テ郡區駐在官ニ達シ同官ヨリ更ニ驅員ハ郡區長兵員ハ戶長ヲ經テ其親族ニ達セシムヘシ又分營ニ在テ禁足ニ換ヘタル者ハ同地ノ府縣駐在官ヨリ本人所屬ノ府縣駐在官ニ通知シ且其旨ヲ領受又ハ營所後備軍司令官ニ申告スヘシ但近衛驅員兵員ヲ東京

若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタルトキハ近衛副官本條ノ手續ニ準シ罰人ヲ其地ノ陸軍監獄長ニ交付シ罰文ハ各領受後備軍司令官ニ送付スヘシ

第百十七條 第百十四條ニ當ル者ノ私服ハ鎮臺營所後備軍司令部若クハ分營所在地ノ府縣駐在所ニ預リ置キ疾病快癒又ハ事故止ミタルトキ之ヲ本人ニ付與シ且旅費ヲ監督部ニ請求シテ本人ニ支給シ然レ後歸郷セシムヘシ但東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル近衛驅員兵員ニシテ第百十四條ニ當ル者ハ近衛副官部ニ於テ本條ニ準シ取扱ヒ尙ホ其歸郷セシメタル者ノ人名ヲ各領受後備軍司令官ニ通知スヘシ

第百十八條 解散ノトキ驅員兵員ニシテ疾病ニ罹リ醫程スルコト能ハサル者アルトキハ全快ヲ待チ歸郷セシムヘシト雖モ陸軍醫官ノ診斷書ニ據リ車駕料ヲ給シ歸郷セシムルコトアルヘシ

第百十九條 解散ヲ命セラレタル驅員兵員既ニ歸郷シタルトキハ其旨ヲ若後三日以内ニ第百五條第百六條ノ手續ニ據リ届出ヘシ

第百二十條 鎮臺營所後備軍司令官府縣駐在官及ヒ郡區駐在官ハ各所ノ通報ニ據リ召集中ニ係ル驅員兵員ノ缺勤罰科等ヲ其名簿ニ記注スヘシ其近衛驅員ノ缺勤罰科等ハ近衛副官ニ於テ其名簿ニ記注スヘシ但疾病又ハ其他ノ事故ニテ召集ニ應セサル者ハ郡區駐在官ニ於テ各自ノ手帖ニ其事由ヲ記注スヘシ

第百二十一條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ演習召集人員表第七式ヲ作り驅員兵員解散後十日以内ニ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ但近衛驅員兵員ニシテ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集シタル者ノ演習召集人員表ハ近衛副官ニ於テ作り近衛ヨリ陸軍省ニ差出スヘシ

第百二十二條 豫備役驅員兵員演習召集ノトキハ第二十八條第二項第三第三十六條第四項ニ係ル

第三十九條第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル諸條第六十九條第七十條ニテ條共相充除ニ第七十一條及ヒ第七十八條ヨリ第八十一條ニ至ル諸條ヲ適用スヘシ

二 後備軍演習召集

第二百二十三條 後備軍編員兵員既ニ演習令狀ヲ領收スルトキハ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ其令狀ニ記載スル召集ノ期日ニ其場所ニ參着シ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ届出ヘシ

第二百二十四條 召集ニ應メヘキ後備軍編員疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ其事實ヲ詳記シ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ準士官以上ハ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ下士ハ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十五條 召集ニ應メヘキ後備役兵員疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ召集ニ應シ難キトキハ本人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ證認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ

第二百二十六條 召集ニ應メヘキ後備軍編員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向ケ發程スヘシ若シ演習半途ニ參着シ難キトキハ速ニ其旨ヲ第百二十五條ノ手續ニ據リ届出テ命ヲ待ツヘシ但出頭ニ及ハサル邊ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ郡區長ニ返付スヘシ

第二百二十七條 召集ニ應メヘキ後備役兵員疾病快癒又ハ事故止ミタルトキハ直ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ召集地ニ向ケ發程スヘシ若シ戶長ニ於テ役場ヨリ召集地迄ノ里程日數ヲ算シ演習半途ニ參着シ難キ見認ノモノハ發程ヲ差留メ速ニ其旨ヲ郡區駐在官ニ通知シ命ヲ待ツヘシ但出頭ニ及ハサル邊ヲ受ケタルトキハ演習令狀ヲ戶長ニ返付スヘシ

第二百二十八條 後備軍演習召集ノトキハ第二十八條^{第一項第三}第四十六條ヨリ第四十八條ニ至ル

諸條第五十五條第五十七條第九十三條第九十五條ヨリ第九十九條ニ至ル諸條第百一條ヨリ第百三條^{三箇條トモ}但書ヲ除クニ至ル諸條第百四條^{分註及ヒ}及ヒ第百九條ヲ適用シ又其召集シタル編員兵員ヲ解散セシムルノ手續ハ概テ第百十條以下諸條ノ例ニ準シ之ヲ行フヘシ

第七章 點呼召集

第二百二十九條 點呼召集ハ鎮臺司令官ニ於テ其期日ヲ定メ鎮臺營所後備軍司令官ニ達シ^{營所後備軍司令官}ニハ營所司令官^{又陸軍省ニ上申スヘシ}

第二百三十條 鎮臺營所後備軍司令官ハ前條ノ達ニ從ヒ府縣駐在官ヲ經テ之ヲ郡區駐在官ニ達シ又同時ニ北海道廳長官府縣知事ニ通知スヘシ

第二百三十一條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ點呼巡迴日割表^{第八式}ヲ作り府縣駐在官ヲ經テ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ同官ノ許可ヲ得テ點呼令狀^{第九式}中ニ點呼ノ日時及ヒ場所等ヲ記シ之ヲ郡區長ニ送付スヘシ

第二百三十二條 郡區長ハ前條ノ令狀ヲ戶長ニ送付シ戶長ハ之ヲ各自ニ配達シ指定ノ場所ニ參會セシムヘシ但點呼ノ場所ニ往復ノ旅費日當ハ官ヨリ之ヲ給セサルモノトス

第二百三十三條 點呼ヲ受クヘキ豫備役後備役兵員既ニ指定ノ場所ニ參着スルトキハ各自手帖ニ點呼令狀ヲ添ヘ郡區駐在官ニ差出スヘシ

第二百三十四條 郡區駐在官ハ便宜ノ地ヲ撰ミ兵種ヲ區別シ一列若クハ二列ニ並列セシメ點呼名簿ノ順序ニ各自ノ姓名ヲ呼ビ終テ圖列ヲ作り明治十五年一月四日ノ勅諭並ニ讀法ヲ讀示シ又服役上ノ規則等ヲ試問スヘシ

第二百三十五條 郡區駐在官ハ前條ノ點呼竣ルノ後各自ノ手帖ニ年月日點呼濟ノ印ヲ捺シ之ヲ本人ニ返付シ然ル後解散セシムヘシ

第三百三十六條 點呼召集ノ期ニ臨ミ疾病犯罪又ハ失踪逃亡等ニテ其場所ニ參會スルコト能ハサルトヤハ木人又ハ親族ヨリ疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ事故ハ其事由書ニ憲兵部ノ體認ヲ受ケ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出ヘシ但點呼ニ參會セサル者ノ手帖ハ本條ノ屆書ト共ニ郡區駐在官ニ差出シ同官之ニ不參ノ事由ヲ記シ更ニ木人又ハ親族ニ返付スヘシ

第三百三十七條 點呼全ク竣レハ郡區駐在官ハ左ノ項目ヲ別チ點呼人員表第十式ヲ作り點呼景況書ヲ添ヘ之ヲ府縣駐在官ニ差出スヘシ

- 一 召集ニ應ジタル者
- 二 寄留旅行等ノ者
- 三 疾病傷減等ノ者
- 四 失踪逃亡若クハ犯罪等ノ者
- 五 徵兵令第二十條各項ニ當ル者

第三百三十八條 府縣駐在官ハ前條ノ報告ヲ一府縣ニ取纏メ之ヲ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ニ差出シ同官ハ一師管ニ取纏メ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ一軍管ニ取纏メ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ

第三百三十九條 郡區駐在官ハ點呼巡迴ノ際戶長役場ニ備フル所ノ兵員名簿ヲ點檢シ又召集ニ關スル要件ハ詳細之ヲ戶長ニ示シ世クヘシ

第八章 召集準備

第四百十條 平戰兩時ノ召集ヲ容易ナラシムル爲メ準備ノ事項ヲ別チテ名簿令狀調査及ヒ雜例ノ四種トス

- 一 名簿

第四百十一條 充員召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

- 一 豫備役驅員充員名簿
- 二 歸休兵充員名簿
- 三 豫備役兵卒充員名簿
- 四 豫備役雜卒充員名簿
- 五 豫備役職工充員名簿

第四百十二條 後備軍召集ニ要スヘキ名簿ハ左ノ如シ

- 一 後備軍驅員召集名簿
- 二 後備役兵卒召集名簿
- 三 後備役雜卒召集名簿
- 四 後備役職工召集名簿

第四百十三條 定時演習召集ニ要スヘキ名簿ハ後備軍司令部條例ニ掲グル驅員兵員ノ名簿ヲ用フルモノトス但近衛驅員兵員ニ在テハ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ヲ用フヘシ

第四百十四條 豫備役驅員充員名簿第十一式ハ各兵科各部及ヒ準士官以上ト下士トニ別チ之ヲ調製スヘシ

第四百十五條 歸休兵豫備役兵員充員名簿第十一式ハ各兵種ニ區別シ種類步兵ニ在テハ上等兵銃卒以下種類トシヲ別チ之ヲ調製スヘシ

第四百十六條 後備軍驅員兵員ノ召集名簿ハ第四百十四條第四百十五條ノ例ニ據リ之ヲ別チ調製スヘシ

第四百十七條 第四百十一條第四百十二條ノ名簿ハ鎮臺下ニ召集スヘキモノハ鎮臺後備軍司令部

二 營所所在地ニ召集スヘキモノハ營所後備軍司令部ニ分營所在地ニ召集スヘキモノハ同地ノ府縣駐在所ニ備置クヘシ但近衛驅員兵員ノ名簿ハ鎮臺營所後備軍司令部ニ備置クヘシ

第百四十八條 府縣駐在所郡區駐在所郡區役所及ヒ戸長役場ニハ各其管轄内驅員兵員ノ名簿ヲ備置クヘシ但本條ノ名簿ハ各召集地近衛驅員兵員ハニ區別シ調製スヘシ

第百四十九條 凡ソ名簿ハ各自身上ノ異動アル毎ニ必ス筆削ヲ加ヘ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第百五十條 前諸條名簿ノ外鎮臺營所後備軍司令部並ニ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テハ戰時名簿ヲ備置クヘシ

二 令狀

第百五十一條 豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮臺ニ於テ調製シ郡區駐在所ニ於テ調製シ但近衛驅員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮臺ニ送付シ鎮臺ヨリ郡區駐在所ニ渡シ置ク可シ

第百五十二條 歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ノ召集令狀及ヒ演習令狀ハ鎮臺ニ於テ調製シ演習令狀ハ郡區駐在所ニ渡シ置キ召集令狀ハ同官ヲ經テ戸長ニ渡シ置クヘシ但近衛兵員ノ令狀ハ近衛ニ於テ調製シ鎮臺ニ送付シ鎮臺ニ於テハ本條ノ例ニ據リ郡區駐在所又ハ戸長ニ渡シ置ク可シ

第百五十三條 郡區駐在所ハ豫備役及ヒ後備軍驅員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シ之ヲ其駐在所ニ備置クヘシ

第百五十四條 戸長ハ兵員ノ召集令狀ヲ充員名簿及ヒ後備軍召集名簿ニ照較シ之ヲ其役場ニ備置クヘシ但本條ノ令狀ハ各自身上ノ異動ヲ生スルトキハ書換ヲ要スルモノヲ除クノ外速ニ朱字ニテ之ヲ訂正スヘシ

三 調査

第百五十五條 近衛鎮臺各隊長ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ左ノ諸項ニ當ルモノヲ除キ充員所要人員ヲ豫算シ一月二十五日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ人員ニ據リ該所要人員ヲ豫算シ八月二十五日迄ニ之ヲ近衛都督若クハ鎮臺司令官少兵ハ旅團ニ報告スヘシ

一 生兵

二 病者

三 犯罪者

四 逃亡中ノ者

五 前諸項ニ該ル者ノ外戰列ニ加フ可ラサル見認ノ者

第百五十六條 近衛都督ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ近衛各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ近衛副官ニ下付スヘシ

第百五十七條 鎮臺司令官ハ本營各部並ニ後備諸隊ノ人員ヲ算定シ各隊長ノ報告ヲ合セ之ヲ鎮臺營所後備軍司令官ハ營所後備軍司令官ニ下付シ又分營ニ召集スヘキ人員ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官ヨリ同地ノ府縣駐在所ニ下付スヘシ但豫備役及ヒ後備軍驅員人名ハ召集スヘキ鎮臺營所及ヒ分營ニ別チ之ヲ下付スルコト本條ニ同シ

第百五十八條 鎮臺營所後備軍司令官ハ本營各部並ニ各隊所要ノ人員ニ基キ充員名簿先着ノ順序ニ從ヒ戰時定員ニ充足スヘキモノト補充隊ニ充ツヘキモノトヲ明瞭ニ區別シ置キ若シ補充隊人員平時戰時ハノ定員ヨリ寡少ナルトキハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備隊員ヲ以テ之ヲ補充シ置クヘシ但分營所在地ニ在テハ同地ノ府縣駐在所本條ノ事務ヲ處辨スヘシ

第百五十九條 前條ノ所要ニ充ツヘキ人員ハ別ニ規定スル所ノ豫備役兵不應徵員見込ノ計算ニ基キ豫備役兵員ノ種類毎ニ其所要人員ノ數分ヲ加ヘ置クヘシ

第六十條 鎮臺後備軍司令官ハ毎年四月二十日ニ現在スヘキ近衛歸休兵並ニ豫備役後備役兵人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ二月十三日迄ニ又十一月二十日ニ現在スヘキ該人員ヲ豫算シ兵種及ヒ種類ヲ分チ九月十五日迄ニ近衛副官ニ通知スヘシ

第六十一條 鎮臺營所後備軍司令官並ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第五百五十八條ノ事務處辦ノ後充員及ヒ後備軍所要人員豫定表^{第十}ニヨリ作リ二月十三日及ヒ九月十五日迄ニ之ヲ鎮臺ニ差出シ鎮臺ニ於テハ初度ノ分ニ限リ軍管ニ取纏メ三月十日迄ニ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ
近衛副官ハ前項ニ準シ近衛所要人員豫定表^{第十}ニヨリ作リ初度ノ分ニ限リ近衛ヨリ之ヲ陸軍省ニ差出スヘシ但補充隊人員平時^{臨時}ハノ定員ヨリ寡多ナルトキハ入營延期ノ者又ハ補充員若クハ第一豫備隊員ヲ以テ之ヲ填補シ置クヘシ

四 雜例

第六十二條 鎮臺ニ於テハ豫メ鎮臺下營所及ヒ分營所在地若クハ近衛兵集合地ニ兵員ヲ召集スヘキ場所ヲ定メ置クヘシ但近衛兵集合地ハ別ニ之ヲ指示ス

第六十三條 鎮臺營所後備軍司令部及ヒ分營所在地ノ府縣駐在所ニ於テハ豫備役後備軍輜員兵員召集ノ發令後其召集地ニ着迄ノ日數ヲ豫定スル爲メ召集布達兵員到着日數表^{第十三}ヲ作リ之ヲ備置クヘシ

第六十四條 郡區役所ニ於テハ充員若クハ後備軍召集ノ令ヲ局長ニ達スル爲メ又豫備役輜員若クハ後備軍輜員ニ召集令狀ヲ配達スル爲メ豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

第六十五條 郡區役所ニ於テハ毎年五月十日十一月十日調ヲ以テ其管轄内歸休兵並ニ豫備役後備軍輜員兵員ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集旅費概算表^{第十四}ニ通テ作リ同月三十日迄ニ一通ハ地方廳ニ差出シ一通ハ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ニ送付スヘシ

第六十六條 地方廳ニ於テハ前條ノ召集旅費概算表ヲ取纏メ各郡區分ケニシテ之ヲ一表ニ作リ毎年六月二十日及ヒ十二月二十日迄ニ陸軍省ニ差出スヘシ
第六十七條 局長役場ニ於テハ充員若クハ後備軍召集ニ當リ歸休兵並ニ豫備役後備役兵員ニ召集令狀ヲ配達スル爲メ豫テ所要ノ脚夫ヲ定メ置クヘシ

第一樣式 其一

曲尺六寸

書式中ハ八米

藍紋藍色

召集令狀

豫備役後備軍(輜員)

宣(何兵何等卒)姓名

召集ヲ令ス

明治何年何月何日

何鎮 印

表 曲尺四寸

裏

召 集 地 名	本人住地	何府縣何郡(區)何町(村)	
	里數 旅費	里	數
何	地	何	十
		何	里
		金	何
		圓	何
		拾	錢

前書ノ金員相渡候也

明治何年何月何日

戸長 姓 名 印

裏面ノ年月日ハ號令ノ際郡區駐在官又ハ戸長ニ於テ記入スヘシ○裏面召集地名住地里數旅費ハ鐵蓋ニ於テ記入シ郡區駐在官又ハ戸長ニ渡シ置クヘシ其後移動ヲ生ヌルトキハ郡區駐在官ニ於テ訂正認印ヲ捺シ置クヘシ○兵員ノ令狀ニハ姓名ノ順ニ鐵蓋ヲ配シ又前番兵員ノ二字ヲ書クヘシ○召集令ノ際不慮ノ者ニテ疾病快癒又ハ事故済ノ者ハ戸長ニ於テ令狀裏面ノ欄外ニ「疾病快癒(何事故済)何月何日歸程」ト配シ認印ヲ捺スヘシ

第一様式 其二

曲尺六寸

藍紋赤色

召集令狀

近衛豫備役(近衛後備連)艦員

官何兵何等卒(姓名)

召集ヲ令ス

明治何年何月何日

近

衛印

表 曲尺四寸

來ル何日午後何地ニ參着ス可シ

何鎮臺(營所)後備軍司令部印

何府縣(何郡)何町(村)

里數 旅費

費

後備役兵員召集ノトキハ
 何鎮暨後備役兵員召集相成候事
 近衛充員召集ノトキハ
 近衛充員召集相成候事
 近衛後備軍驅員召集ノトキハ
 近衛後備軍驅員召集相成候事
 近衛後備役兵員召集ノトキハ
 近衛後備役兵員召集相成候事
 第五様式 其一
 曲尺六寸

組尺四寸

演習令狀

豫備役(後備軍)驅員
 官何兵何等卒(姓名)

右來ル何月何日ヨリ何週日間演習ヲ施行
 ×何月何日午後何時何地へ參集×可シ

明治何年何月何日

何鎮 臺印

藍紋藍色

裏

召集地名	本人住地	何府縣何郡(區)何町(村)	里	敷	旗	費
	里數					
何	地	何	十	何	里	金何圓何拾錢
前書ノ金員相渡候也						
明治何年何月何日						
戸長 姓名 印						

近衛兵ヲ召集兵ト合シ演習召集ヲ行フトキハ此令狀ヲ用ヒ前書豫備役又ハ後備軍ノ上ニ近衛ノ二字ヲ加フヘシ○兵員
 ノ令狀ニハ姓名ノ前ニ近衛ヲ記シ又前書驅員ノ二字ヲ省クヘシ共ニ様式亦同シ
 第五様式 其二
 曲尺六寸

組尺四寸

演習令狀

近衛豫備役(近衛後備軍)驅員
 官何兵何等卒(姓名)

右來ル何月何日ヨリ何週日間演習ヲ施

藍紋赤色

行ス何月何日何地へ參集ス可シ
明治何年何月何日

近 衛印

表面之通ニ付來ル何月何日午後何時何地へ參着ス可シ

何鎮臺(營所)後備軍司令部印

裏

召集地名	本人住地	何府縣何郡(區)何町(村)
	里數	何里
何	地	何十何里
	何	何里
前書ノ金員相渡候也		戸長
明治何年何月何日		姓
		名
		印

裏面ノ里數及ヒ旅費ハ住地ヨリ近衛兵集合地ヲ經テ東京若クハ臨時指定ノ地ニ至ル里數及ヒ旅費ヲ記入スヘシ

第六様式 兵員解散人名簿

用紙美濃製紙

兵員解散人名簿

歸休(後備)兵之部

府	縣一郡(區)町(村)	從解散地至住地里程	旅	費	姓	名
何	府何區何町	何里	金	何圓	何	某
同	同	何里	何町	金	何錢	何
何	縣何郡何村					
同	同					

後備役後備軍兵員解散人名簿ハ此様式ニ準シ別ニ調製スヘシ

第七様式 其一 演習召集人員表

明治何年東京鎮臺豫備役(後備軍)兵員演習召集人員表

東	帥管	召集地	兵科	階級	召集ワ	内	召集ニ應シタル人員	召集ニ應セサル人員
	各部	各部	上長官	下士官	下士	演習シタル者	病氣事故ニテ演習ヲ缺キタル者	病氣事故等ノ者故ナク不參ノ者

第十二様式 其四 近衛充員所要人員豫定表

明治何年 近衛充員所要人員豫定表 其一

國	種	現役人員	充員		所		要		人員	
			兵	卒	雜	卒	職	人員	工	
師團本部					補重輪卒	君證	隨機	工	工	工
第一旅團本部					長	工	工	工	工	工
第二旅團本部					工	工	工	工	工	工
步兵第一聯隊	銃				工	工	工	工	工	工
步兵第二聯隊	銃				工	工	工	工	工	工
步兵第三聯隊	銃				工	工	工	工	工	工
步兵第四聯隊	銃				工	工	工	工	工	工
騎兵聯隊	騎				工	工	工	工	工	工
砲兵聯隊	砲				工	工	工	工	工	工
工兵大隊	工				工	工	工	工	工	工
總計										

補重兵隊設置區補重兵ノ區並ニハ同職率ノ幹部ニ充ツヘキ他兵科ノ豫備役兵員ヲ配シ備考隊並ニ其兵種及ヒ種類等ヲ配スヘシ又補重隊率ノ區並ニハ各補重ノ職率ニシテ近衛ニ要スル人員ヲ配スヘシ此五様式亦同シ○海面所定ハ實際ニ就キ適宜増減スヘシ其六様式ニ至ル皆同シ

第十二様式 其五 近衛充員所要人員豫定表

隊	種	現役人員	充員		所		要		人員	
			兵	卒	雜	卒	職	人員	工	
步兵第一聯隊	銃				補重輪卒	君證	隨機	工	工	工
步兵第二聯隊	銃				長	工	工	工	工	工
步兵第三聯隊	銃				工	工	工	工	工	工
步兵第四聯隊	銃				工	工	工	工	工	工
騎兵聯隊	騎				工	工	工	工	工	工
砲兵聯隊	砲				工	工	工	工	工	工
工兵大隊	工				工	工	工	工	工	工
總計										

ノ準備ヲナスニ支障ナカランコトヲ可シ

第八條 第一豫備艦ニハ定員中若干員ヲ常置シ以テ其艦ノ守衛保存ニ充ツ

第九條 第二豫備艦第三豫備艦ニハ裝載物件ノ多寡ニ應ジ定員中若干員ヲ常置シ其他ノ守衛保存ニ充ツヘキ人員ハ水兵屯營ヨリ派シ豫備艦總理之ヲ監督ス

第十條 豫備艦ノ機裝解裝並諸報告其他一切ノ事務ハ豫備艦總理之ヲ掌ル

第十一條 豫備艦ノ機關保存修理等ハ豫備艦機關長之ヲ擔任スルモノトス

第十二條 豫備艦中ノ一艦ニ軍醫長主計長各一名軍醫主計各一名ヲ置キ筆記看護手若干名ヲ屬シ豫備艦總理ノ命ヲ受テ豫備艦一切ノ醫務衛生會計給與ノ事ヲ擔任セシム

第十三條 豫備艦部ニ中央工作船ヲ設置シ第二豫備艦第三豫備艦ノ修理ニ關スル工事ヲナサシム但時宜ニ依リ第一豫備艦ノ工事ヲナサシムルコトアル可シ

第十四條 豫備艦ノ修理ハ成ルヘシ中央工作船若シハ其艦ノ乘員ヲ以テ負擔シ尙人員ノ不足ヲ告ルトキハ豫備艦總理之ヲ屯營長ニ通報シ在營ノ水兵職工等ヲ使用スルモノトス

第十五條 其修理造船部ニ於テセサレハ能サルトキハ豫備艦總理之ヲ軍港司令官ニ具申ス可シ

○海軍省令百十六號

海軍一級

海軍定期檢閱細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年十月九日

海軍定期檢閱細則

第一條 鎮守府司令長官艦隊司令長官司令官定期檢閱ノ順序ハ此細則ニ照シ適宜ニ之ヲ定ム可シ
第二條 定期檢閱ノ隨行員ハ參謀部員ヲ用フルヲ例トスト雖モ其須要ニ依リ他ノ上長官士官以下ヲ隨行セシムルコトヲ得

第三條 常備艦船ノ檢閱ハ每艦船ニ就テ第一節ノ諸項ヲ檢閱シ又諸艦ヲ合併シテ第二節ノ諸項ヲ檢閱ス

第一節 人員調査

第一項 人員調査

第二項 善行章及褒砲其他技術證狀所有者並ニ下士以下行狀等級

第三項 部署表航泊日誌機關室日誌報告諸表勅諭刑罰ニ關スル諸簿册砲術長水雷長航海長等砲長掌水雷長掌帆長船匠師掌理諸簿册

第四項 分隊並列

第五項 釣床手函表囊

第六項 甲板諸部及諸器具

第七項 艙内諸部及諸器具

第八項 大砲小銃拳銃船刀船鎗操練

第九項 信號書及信號法

第十項 戰爭部署準備及操練

第十一項 端舟軍裝

第十二項 陸戰部署及準備

第十三項 水雷防禦部署及準備

第十四項 攻擊及防禦水雷準備

第十五項 防火部署準備及操練

第十六項 操帆部署及帆前圓材操練

- 第十七項 汽機汽鍋諸部豫備器具機關官掌理諸簿冊
- 第十八項 患者ノ現狀藥品醫療器械軍醫官掌理諸簿冊
- 第十九項 衛生ノ現況
- 第二十項 糧食及其給與法
- 第二十一項 主計官掌理諸簿冊並ニ現貨
- 第二節
 - 第一項 端舟機漕及帆走
 - 第二項 艦隊運動本艦或端舟
 - 第三項 陸戰隊上陸法
 - 第四項 陸上ニテ砲隊銃隊ノ操練
 - 第五項 小銃射的
- 第四條 常備艦船ハ檢閲ノ前一週年中ニ施行セル大砲射的表ヲ檢閲ニ供ス可シ
- 第五條 練習艦ノ檢閲ハ主トシテ左ノ諸項ヲ檢閲シ且第三條ノ諸項ヲ斟酌シテ檢閲ス
 - 第一項 教務ニ關スル書類
 - 第二項 席上及實地授業
- 第六條 修理中ノ艦船ハ主トシテ左ノ諸項ヲ檢閲シ且第三條ノ諸項ヲ斟酌シテ檢閲ス
 - 第一項 修理部工事ノ現狀
 - 第二項 工事ニ關スル書類
 - 第三項 附屬諸具ノ保護
- 第七條 艦裝中ノ艦船ハ主トシテ左ノ諸項ヲ檢閲シ且第三條ノ諸項ヲ斟酌シテ檢閲ス

- 第一項 工事ノ成績及後來ノ目的
- 第二項 工事ニ關スル書類
- 第三項 附屬諸具ノ保護
- 第八條 豫備艦船ハ主トシテ左ノ諸項ヲ檢閲シ且第三條ノ諸項ヲ斟酌シテ檢閲ス
 - 第一項 艦船ノ諸部及屬具ノ保護
 - 第二項 艦裝ノ準備
- 第九條 屯營ハ左ノ諸項ヲ檢閲ス但第八項ノ中砲隊銃隊操練及第十項第十一項ハ時宜ニ依リ艦船ニ合併シテ檢閲スルコトアル可シ
 - 第一項 人員調査
 - 第二項 善行章及褒袍其他技術證狀所有者並ニ下士以下行狀等級
 - 第三項 部署表入退營表營内日誌勳怠刑罰ニ關スル諸簿冊掌砲長掌水雷長掌帆長船匠師掌理諸簿冊
 - 第四項 分隊整列
 - 第五項 釣床手函衣履
 - 第六項 兵舍及附屬建造物
 - 第七項 諸倉庫
 - 第八項 諸操練
 - 第九項 防火準備及操練
 - 第十項 端舟機漕及帆走
 - 第十一項 小銃射的

- 第十二項 機關官ニ屬スル諸物件及其掌理諸簿冊
 - 第十三項 患者ノ現狀藥品醫療器械及軍醫官掌理諸簿冊
 - 第十四項 下士卒教育ノ現狀
 - 第十五項 衛生ノ現況
 - 第十六項 糧食及其給與法
 - 第十七項 主計官掌理諸簿冊並ニ現貨
- 第十條 參謀軍醫主計兵器建築豫備艦水雷航海ノ各部ニ於テハ左ノ諸項ヲ檢閲ス
- 第一項 執務ノ景況
 - 第二項 事務取扱ノ順序
 - 第三項 器具物品ノ保護
 - 第四項 器具物品ノ出納ニ關スル諸簿冊
 - 第五項 工事ニ關スル諸簿冊
 - 第六項 會計諸簿冊並ニ現貨
 - 第七項 廩倉及所屬建造物
- 第十一條 造船部所ニ於テハ左ノ諸項ヲ檢閲ス
- 第一項 前一週年間工事ノ進歩ヲ徵スル書類及物件
 - 第二項 各工場
 - 第三項 現ニ着手中ノ工業
 - 第四項 實地就業
 - 第五項 所屬建造物

- 第六項 諸倉庫諸材料
 - 第七項 會計諸簿冊並ニ現貨
- 第十二條 病院ニ於テハ左ノ諸項ヲ檢閲ス
- 第一項 患者ノ現狀
 - 第二項 藥品醫療器械
 - 第三項 所屬建造物
 - 第四項 患者ノ給與法
 - 第五項 前一週年間患者ノ増減及治療ノ進歩ヲ徵スル書類及物件
 - 第六項 會計諸簿冊並ニ現貨
- 第十三條 軍法會議ニ於テハ左ノ諸項ヲ檢閲ス
- 第一項 執務ノ景況
 - 第二項 事務取扱ノ順序
 - 第三項 豫審公判ニ關スル書類
 - 第四項 廩倉及所屬建造物
- 第十四條 監獄ニ於テハ左ノ諸項ヲ檢閲ス
- 第一項 獄舎及所屬建造物
 - 第二項 囚徒ノ現狀
 - 第三項 囚徒衛生ノ現況
 - 第四項 囚徒就役ノ現狀
 - 第五項 前一週年間囚徒ノ増減及就役實況ニ關スル書類

第六條 下士卒進級ノ資格ヲ備フル者ト雖モ職務勉勵行狀方正ノ者ニ非サレハ進級セシムルコトヲ得ヌ

第七條 水兵ハ掌砲證狀若クハ運用術卒業證書又ハ水雷術卒業證書ヲ有スル者ニ非サレハ下士ニ進級スルコトヲ得ヌ

第八條 火夫木工鍛冶ハ練習工卒業證書ヲ有スル者ニ非サレハ下士ニ進級スルコトヲ得ヌ

第九條 進級ノ法ハ總テ拔擢ヲ以テス

第十條 左ノ場合ニ在テハ前諸條ノ例ニ依ルコトナク進級セシムルコトヲ得

一 敵前ニ在テ殊勳ヲ奏セシ者アル時

二 戰地ニ在テ人員多ク缺乏シ補除定規ヲ履ム能ハサル時

第十一條 此條例ニ於テ海上勤務ト稱スルハ艦船ニ乗組ミ服務スルヲ云フ

第十二條 海上勤務ノ者ニシテ公務ニ原因セサル傷病疾病ニ依リ上陸療養ノ日數ハ海上勤務ニ算入セヌ

第十三條 非職收禁懲罰及自己ノ願ニ因テ歸省中ノ日數ハ實役停年ニ算入セヌ

第十四條 敵ノ捕虜トナリ正醫ノ理由アル者ハ其年月ヲ實役停年ニ算入スルコトヲ得

第十五條 下士ノ進級順序ヲ定ムル爲メ毎年定期檢閲畢ルノ後各鎮守府司令長官艦隊司令長官司令官ハ軍港司令官艦隊司令次官及學術檢査委員長ヲ鎮守府ニ會同シテ決定候補名簿ヲ作ルモノトス

第十六條 決定候補名簿ヲ作ルノ法ハ所管長官ヨリ各鎮守府ニ出シタル候補名簿ニ就キ同級合格者ヲ合シ優劣ヲ比較シ以テ其列序ヲ定ム

第十七條 下士ノ進級ハ缺員アル毎ニ各鎮守府司令長官決定候補名簿ノ列序ニ從ヒ除任スルモノトス

第十八條 下士ノ准士官ニ進級スヘキ者ノ決定候補名簿ハ鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ進達シ海軍大臣ハ補除ヲ要スル毎ニ其列序ニ從ヒ之ヲ除任ス

第十九條 凡決定候補名簿ノ効ハ次回ノ決定候補名簿調製迄ノモノトス

第二十條 戰地出張及外國派遣ノ艦隊司令長官司令官ハ下士ヲ進級補除スルコトヲ得又鎮守府司令長官艦隊司令長官司令官ハ戰地出張及外國派遣ノ司令次官若クハ艦船長ニ進級補除ノ權ヲ假スコトヲ得

第二十一條 卒ノ進級ハ各所管長官之ヲ專行ス

第二十二條 艦船營長ハ毎年五月十一月ニ於テ卒ノ進級具狀名簿ヲ製シ所管長官ニ出ス可シ

第二十三條 所管長官進級具狀名簿ヲ受領シタルトキハ之ニ取捨ヲ加ヘ六月十二月ニ於テ進級ヲ行フ可シ

第二十四條 艦船營外ニ在ル卒ノ進級モ亦前諸條ノ例ニ準ス

○海軍省令第百十八號
海軍下士卒學術檢査規則ヲ定ムルコト左ノ如シ
明治十九年十月九日
海軍大臣 伯耆大山 巖

海軍下士卒學術檢査規則
第一條 凡下士卒實役停年最下期限ヲ過キタル者アルトキハ其學術ヲ檢査シ以テ拔擢進級セシムヘキ者ヲ選擇ス但下士ノ檢査ハ定期檢閲ノ時期卒ノ檢査ハ進級具狀名簿ヲ出スノ時期ニ先キ之ヲ施行ス可シ

第二條 下士卒學術檢査ノ規格ハ毎年之ヲ定メ檢査實施シ期ヨリ六箇月前ニ布達スルヲ例トス卒ノ

明治十九年十月 省令 海軍省第百十八號

七百八十三

第八條 學術検査ニ用フル問題ハ所管長官之ヲ定メ密封ヲ以テ委員長ニ送付ス可シ
 第九條 委員長ハ検査了ルノ後成績表ヲ製シ所管長官ニ出ス可シ
 第十條 掌砲艦狀ヲ有スル者ハ砲術ノ検査水雷術卒業證書ヲ有スル者ハ水雷術ノ検査ヲ要セス又
 卒ニシテ練習工卒業證書ヲ有スル者ハ各其技術ノ検査ヲ要セス
 第十一條 軍樂員ノ技術検査ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

○海軍省令第百十九號

海軍一殿

海軍准士官下士増俸規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年十月九日

海軍大臣伯爵大山巖

海軍准士官下士増俸規則

第一條 准士官ハ各其本官ニ被任或ハ増俸ノ日ヨリ起算シ實役二箇年ヲ過クルニ非サレハ増俸スルコトナシ
 第二條 下士ハ進級條例ニ掲グル實役停年最下期限ノ半ヲ過クルニ非サレハ増俸スルコトナシ但
 進級條例ニ實役停年ヲ掲ケサル者ノ増俸資格ハ其次級ノ者ニ準ス
 第三條 増俸資格ヲ備フル者ト雖モ職務勉勵技術進歩行狀方正ナル者ニ非サレハ増俸スルコトナシ
 第四條 准士官下士ノ増俸セシムルハキ者アルトキハ左ノ諸項ニ依リ取扱フ可シ
 鎮守府ニ在テハ艦船艦長其他各部ノ長ハ増俸名簿ヲ作り軍港司令官ニ出シ司令長官ニ直隸スル
 艦隊ニ在テハ艦船長ハ増俸名簿ヲ作り司令次官ニ出シ司令長官司令官直轄ノ艦船長ハ參謀長ニ
 出シ司令次官參謀長ハ各之ヲ取捨シ更ニ増俸名簿ヲ作り司令長官司令官ニ出ス該官ハ之ヲ鎮守
 府司令長官ニ移ス可シ

參謀本部海軍部ニ在テハ副官各局長増俸名簿ヲ作り次長ニ出シ次長ハ之ヲ取捨シ更ニ増俸名簿
 ヲ作り本部長ノ命ヲ承ケ之ヲ鎮守府司令長官ニ移ス可シ
 各局諸官屬ニ在テハ其長増俸名簿ヲ作り之ヲ鎮守府司令長官ニ移ス可シ

第五條 前條ノ増俸名簿ヲ作ルニ際シ軍港司令官艦隊司令次官ハ其部下先任ノ機關監軍醫監主計
 監客一名ヲシテ各部下士ノ増俸名簿取捨ノ職ニ參セシメ參謀長ハ司令長官司令官ニ直隸スル先
 任ノ機關監軍醫監主計監客一名ヲ各部下士ノ増俸名簿取捨ノ補助トス可シ

第六條 増俸名簿ヲ鎮守府ニ移スハ四月三十日ヲ期限トシ其停年ヲ算スルハ一月一日ヲ以テス
 第七條 進級會議ニ於テ鎮守府増俸名簿並ニ參謀本部艦隊及各屬ヨリ差出シタル増俸名簿ニ就キ
 審議ノ上決定増俸名簿ヲ作ル可シ

第八條 准士官ノ決定増俸名簿ハ鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ進達ス可シ
 第九條 下士ノ増俸ハ決定増俸名簿ニ依リ鎮守府司令長官之ヲ執行ス

第十條 決定増俸名簿ノ効ハ次回ノ決定増俸名簿調製迄ノモノトス
 第十一條 非職收養刑罰及自己ノ願ニ依リ歸省中ノ日數ハ實役停年ニ算入スルヲ得ス

○海軍省令第百二十號

海軍一殿

明治八年丙記三番第八十九號達應寫字生日給表同十年十一月丙第百三十一號達應出仕及職工等日給
 渡方ノ件同年十一月丙第百三十六號達應給仕日給表同十二年十一月丙第百七號達應使下小使日給表同十
 七年三月丙第四十號達應工手並監護日給表ヲ廢ス
 明治十九年十月十一日

海軍大臣伯爵大山巖

○文部省令第十七號

勅令第十三號師範學校令第十二條ニ基キ高等師範學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年十月十四日

文部大臣 森 有禮

高等師範學校ノ學科及其程度

- 第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分チテ男子師範學科及女子師範學科トス
- 第二條 男子師範學科ヲ分チテ理化學科博物學科及文學科トス
- 第三條 理化學科ハ教育學倫理學英語數學物理學化學手工圖書及音樂體操トス
- 第四條 博物學科ハ教育學倫理學英語有機化學礦物學地質學植物學動物學生理學農業圖書及音樂體操トス
- 第五條 文學科ハ教育學倫理學國語漢文英語地理歷史理財學哲學及音樂體操トス
- 第六條 各學科ノ程度左ノ如ク

- 理化學科
- 教育學
- 倫理學
- 教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習
- 人倫道德ノ要旨
- 英語
- 講讀 作文 翻譯
- 數學
- 代數 幾何 三角術 測量 解析幾何 微分積分大意
- 物理學
- 力學 熱學 音響學 光學 越歷學 磁氣學 實驗・天文 氣象

化學

無機化學 有機化學 實驗 定性及定量分析

手工

木工金工ノ道具用法 簡易ノ木金器具製造

圖書

用器畫法

音樂

溫習

體操

普通及兵式體操

博物學科

教育學

倫理學

教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習

人倫道德ノ要旨

英語

講讀 作文 翻譯

有機化學

總論 炭素化合物分類及特論

礦物學地質學

礦物總論 礦物特論 礦物鑑識 構造地質 諸力ノ作用 地質沿革
 植物學 植物分類 植物組織 植物生理 實驗
 動物學 動物分類 動物組織 動物發生 實驗
 生理學 總論 骨骼 筋肉 皮膚 循環 呼吸 消化 神經 特感 衛生 實地解剖
 農業 土ノ成分分類植物ノ成分等 肥料ノ用法家畜ノ糞澤保護等 耕作ノ實業 器具ノ用法
 圖書 臨畫 投影畫法 照鏡法 寫生
 音樂 溫習
 體操 普通及兵式體操
 文學科
 教育學 倫理學
 教育汎論 教授汎論 教授各論 教育史 批評及實地練習

人倫道德ノ要旨
 國語漢文 日本ノ文法文學及作文 支那ノ文法文學及作文
 英語 講讀 作文 翻譯
 地理歴史 政治地理 日本歴史 外國歴史
 理財學 大意
 哲學 心理 論理 哲學史
 音樂 溫習
 體操 普通及兵式體操
 第七條 理化學科博物學科及文學科ノ修業年限ハ三箇年トス
 第八條 理化學科博物學科及文學科ニ於テハ各三學級ヲ設ケ每學級ノ授業時限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スヘキモノトス
 第九條 理化學科博物學科及文學科ノ授業ノ時間配當ハ左表ニ依ルヘシ
 理化學科

